

JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION

ANNUAL REPORT 2024



水辺の事故ゼロをめざして
日本ライフセービング協会



公益財団法人日本ライフセービング協会(JLA)は、
国際ライフセービング連盟(ILS)の日本代表機関です。
本協会の認定する資格は、国際資格に準拠しています。

全国215か所の 監視救助活動報告による 2024夏のレスキュー



Emergency Care



意識なしの
溺者の救助

8件

Preventive Action



意識ありの
溺者の救助

450件

2024
未然事故
防止活動



離岸流に関する注意喚起
13,892人



飲酒に関する注意喚起
14,176人



ライフセーバーの未然事故防止活動総数は
28,068人

溺れを未然に防止するために、とくに離岸流と飲酒に関する注意喚起をおこなっています。海でのヒヤリハットに対するアプローチであり、この活動が深刻な溺れの事故の回避に繋がっています。

2024
溺れの
特徴

要救助者は**24**歳以下が多い

要救助者は男性が女性の約**2**倍

レスキューは昼すぎに多く、**12時**と**14時**台に多い、

浮具を使用している利用者が要救助者になりやすい

20~24歳は風に流されたことによる救助件数が最も多い

5~9歳は陥没や急深にはまることが原因の救助が離岸流に次いで多い

日本財団「海のそなえプロジェクト」による「国民の水域利用と水難事故に関する意識調査」(対象15~70歳の男女11,829人)によると、約5人に1人が、「自力で陸や地上に戻れない」「意識を失う」「心肺停止になる」といった、溺れの経験があると回答しました。その溺れの経験があると回答した方の多くは、小学生以下で経験していました。2024年のJLA調べによる水浴場での溺れの実態でも、**子供たちの事故が多い**といった特徴がみられました。

参考引用:日本財団「海のそなえ」水難事故に関する調査サマリーより
(<https://uminosonae.uminohi.jp/2024/report/index.html>)

わが国の水難者数(警察庁;死者・行方不明者,負傷者,無事救出)は**毎年1,500人を超え、その51%が海で発生**しています。(2014~2023年平均・警視庁調べ)

ライフセーバーが活動する全国215か所の水浴場(海水浴場211か所,湖水浴場2か所,プール2か所)では、意識なしの溺者を含む救助は458件であり、そのほとんどは警察庁の水難者数にはカウントされていません。

また、救助件数は、Covid-19によるパンデミック以前の2,345件(2015-2019平均)の19.5%と減少していますが、2024年の総利用者数は3,92万人で、パンデミック以前の986万人の40%と少ないため、利用者数を考慮すれば、2024年の救助者数は1,152件と算出することができ、警察庁の海での水難者数を超える1,000件を超える救助が未だ行われていることとなります。

一方、日本財団「海のそなえプロ

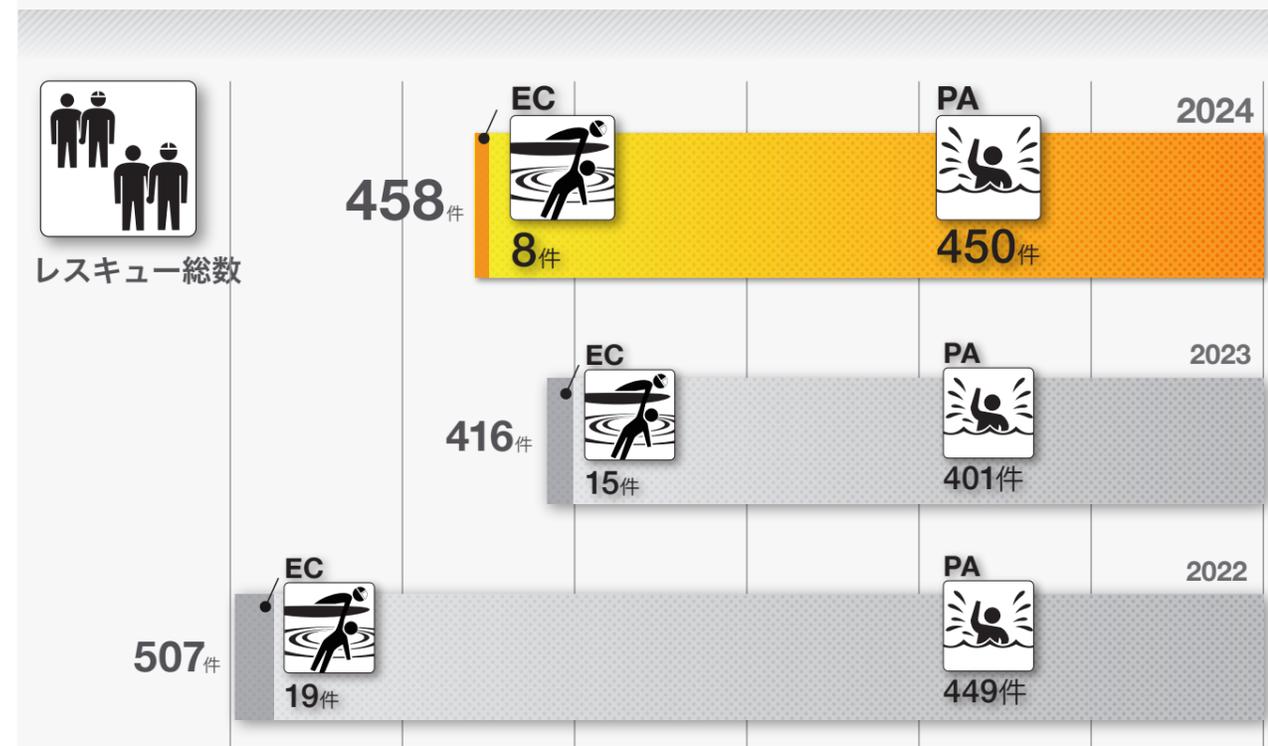
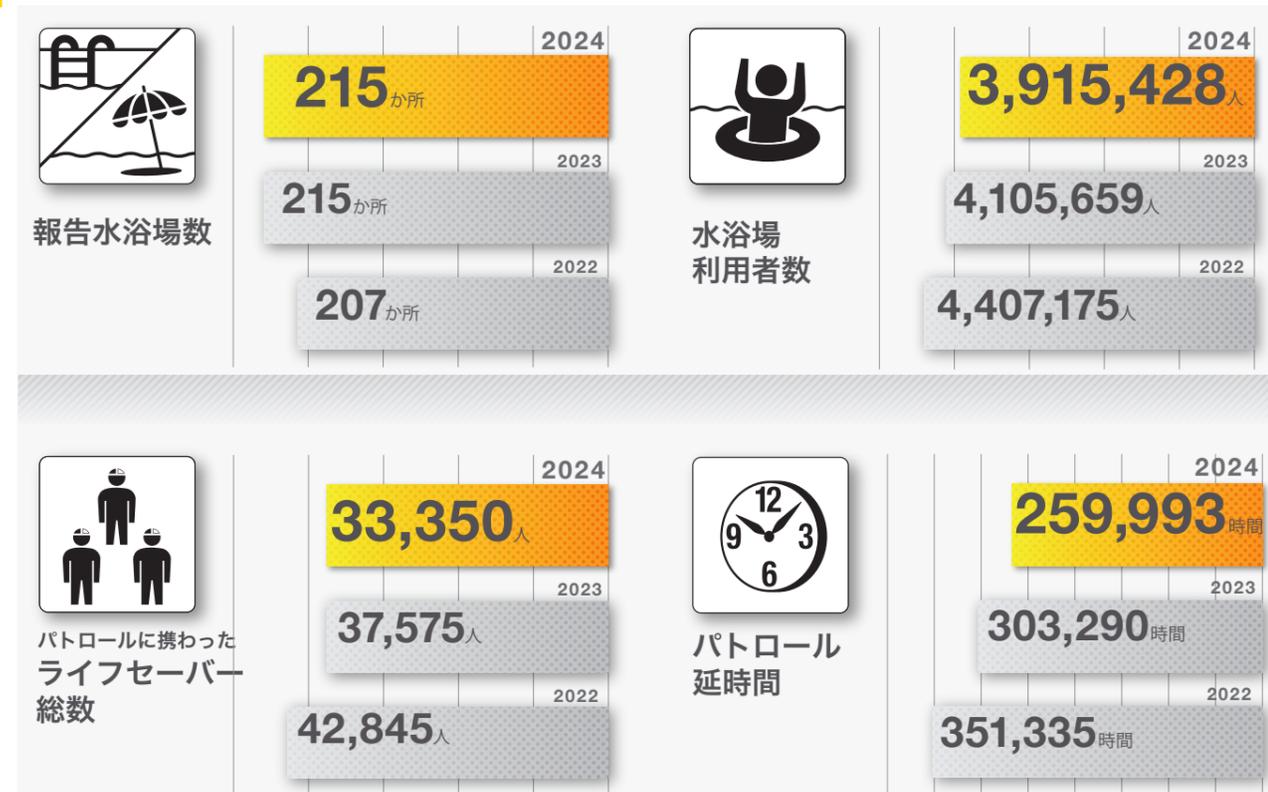
ジェクト」による、2024年の国民の水域利用と水難事故に関する意識調査によれば、**約5人に1人(2,012人/11,829人)の人が溺れの経験があると**回答していました。公的救助機関が関わっていない事故未済の溺れも多く起きていると考えられ、この点については、各水浴場で行われたライフセーバーによる離岸流や飲酒後の遊泳に関する計28,068回の注意喚起が事故未然防止に有効であると考えられます。

Contents

02	パトロールログ 2024 トピックス & 集計	52	全日本年間総合順位
06	レスキューレポート	54	ライフセービングスポーツ本部総括
10	加盟クラブ	56	その他の事業
12	ライフセーバーが活動する海水浴場等	58	2024 年度表彰
15	監視救助事業	60	関係諸団体との連携推進
19	ライフセービング高度化事業	63	2024 年度 組織概要
25	救助救命本部総括	64	—日本ライフセービング協会の理念
26	資格認定事業	66	—組織概要
33	JLA ACADEMY 本部総括	68	—役員・専門委員会・事務局・加盟団体
34	安全・防災教育・環境保全事業	71	—2024 年度財務レポート
38	ライフセービング教育本部総括	72	理事長挨拶
39	競技推進事業		

パトロールログ 2024 トピックス & 集計

日本ライフセービング協会の加盟クラブが活動する全国の監視活動エリア 215 か所 (海水浴場 211・湖水浴場 2・プール2) より、集計可能なデータを対象にまとめました。

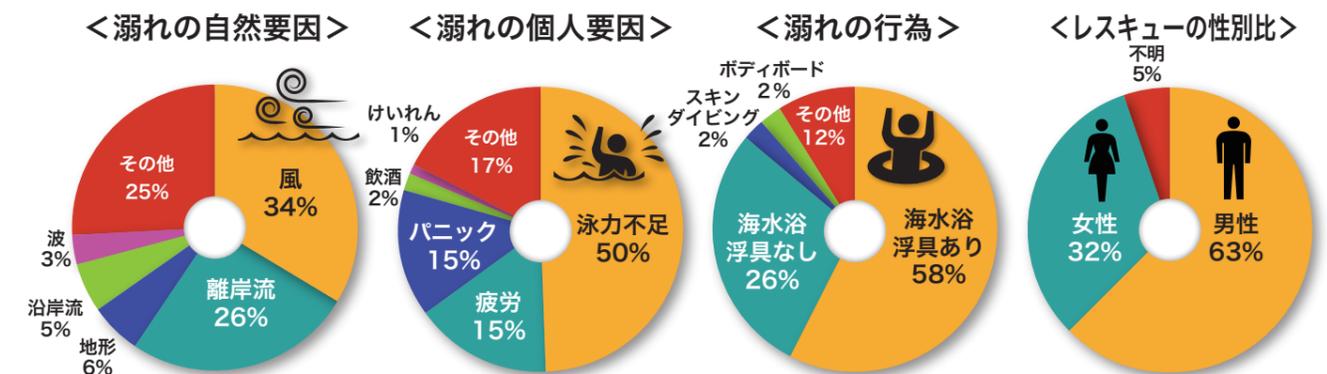


※EC = Emergency Care … 意識のない溺者に対する救助アプローチ、PA = Preventive Action … 意識のある溺者に対する救助アプローチ

2015-2019 年の平均との比較

	2024	2023	2022	2015-2019 平均
報告水浴場数 (か所)	215	215	207	199
水浴場利用者数 (人)	3,915,428	4,105,659	4,407,175	9,862,220
ライフセーバー総数 (人)	33,350	37,575	42,845	45,379
Preventive Action (件) (意識ありの溺者の救助)	450	401	449	2,318
Emergency Care (件) (意識なしの溺者の救助)	8	15	19	27
未然事故防止活動① (件) 離岸流に関する注意喚起	13,892	39,873	55,555	229,150*
未然事故防止活動② (件) 飲酒に関する注意喚起	14,176	21,575	30,860	84,617*
FA (応急手当) (件)	4,641	2,579	5,494	18,340
救急搬送 (件)	183	137	115	139

※ 2018 年と 2019 年の平均値



要因	PA	EC
風に流される	162	0
離岸流に流される	125	0
陥没・急深にはまる	27	1
沿岸流に流される	26	0
波に巻かれる	15	1
その他	116	5

要因	PA	EC
泳力不足	259	0
疲労	81	0
パニック	76	0
飲酒	10	1
けいれん	4	1
その他	86	5

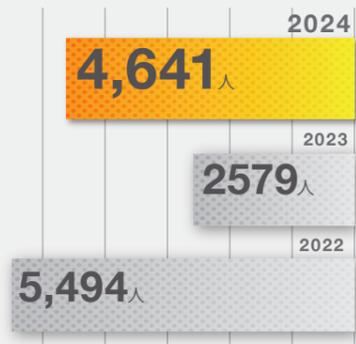
行為	PA	EC
海水浴一浮具あり	270	0
海水浴一浮具なし	117	4
スキンダイビング	9	1
ボディボード	7	1
サーフィン	0	0
その他	57	1

性別	PA	EC
男性	280	7
女性	147	1
不明	23	0

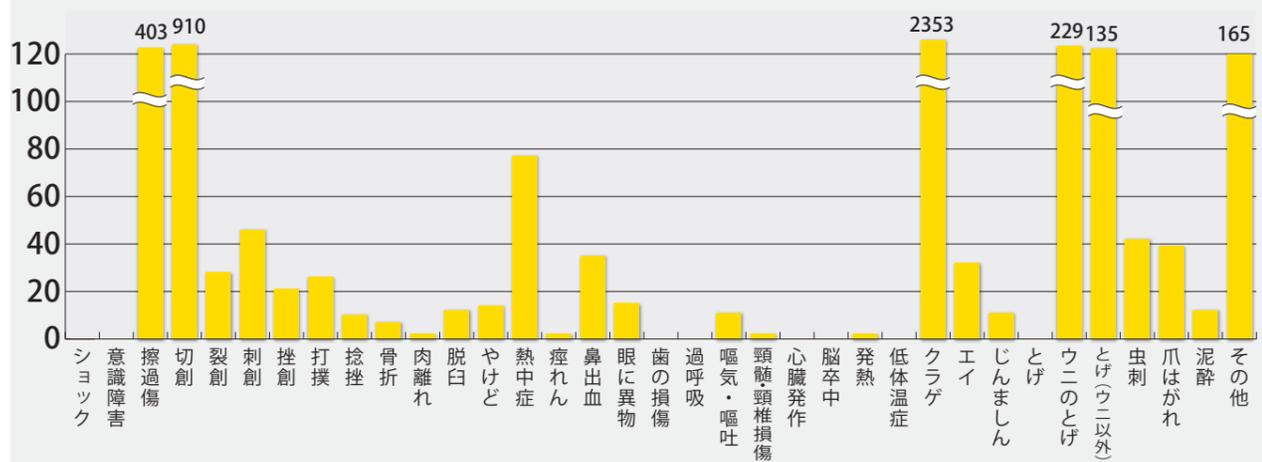
※EC = Emergency Care … 意識のない溺者に対する救助アプローチ、PA = Preventive Action … 意識のある溺者に対する救助アプローチ



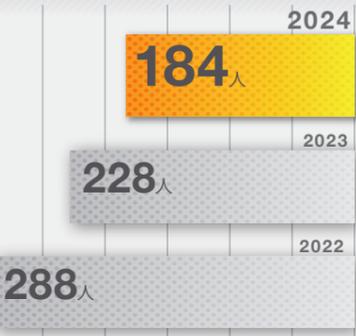
ファースト エイド総数



ショック	0	骨折	7	過呼吸	0	じんましん	11
意識障害	0	肉離れ	2	嘔気・嘔吐	11	とげ	0
擦過傷	403	脱臼	12	頸髄・頸椎損傷	2	ウニのとげ	229
切創	910	やけど	14	心臓発作	0	とげ（ウニ以外）	135
裂創	28	熱中症	77	脳卒中	0	虫刺	42
刺創	46	痙れん	2	発熱	2	爪はがれ	39
挫創	21	鼻出血	35	低体温症	0	泥酔	12
打撲	26	眼に異物	15	クラゲ	2353	その他	165
捻挫	10	歯の損傷	0	エイ	32		



迷子総数



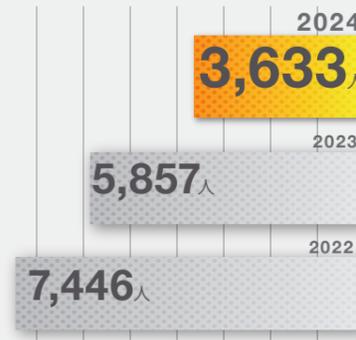
救急搬送 件数



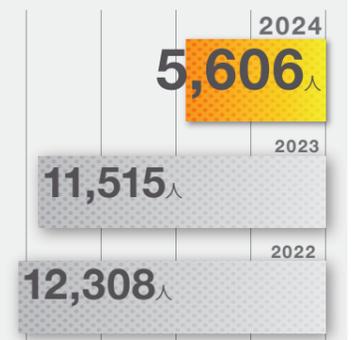
【BLS & Water Safety プログラム参加実績数】



BLS



Water Safety



資格取得のための BLS 講習会、ウォーターセーフティ講習会受講者と、体験のための BLS サポーター、ウォーターセーフティサポーター参加者の総数です。
BLS … Basic Life Support (一次救命処置)



レスキューレポート

日本ライフセービング協会の加盟クラブが活動する全国の監視活動エリア 215 か所（海水浴場 211・湖水浴場 2・プール2）よりレポートのあった事例。

救急搬送事例

No.	月	年齢	性別	状況	救助方法	意識	溺水	救急搬送	監視時間	遊泳エリア	発生または覚知から接触	飲酒
1	8	不明	男	波打ち際で倒れていた	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	あり
2	6	不明	男	酩酊状態	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	あり
3	7	27	男	飲酒後に堤防から飛び込みをして頭を打ち動けなくなった	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	あり
4	7	60代	男	気分不快	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	あり
5	7	不明	不明	波打ち際で浮いているのをライフセーバーが発見し救助	なし	なし	あり	あり	内	内	2分	あり
6	7	不明	男	浮き輪から手を離し追いかけて溺水	フィン無しレスキューチューブレスキューボード	なし	あり	あり	内	内	2分	なし
7	7	60	男	サーフィン中にサーファー同士の接触で裂傷	なし	なし	なし	あり	内	内	不明	なし
8	7	20	男	海水浴場外の岩場で足を切った	なし	あり	なし	あり	内	外	不明	不明
9	7	不明	不明	一般客に引き上げられた溺水	なし	あり	あり	あり	内	外	1分以内	あり
10	7	53	女	体調不良の訴え	なし	あり	なし	あり	外	内	7分	なし
11	7	15	男	遊泳中にエイに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	10分	なし
12	7	76	男	海水浴場内の広場で熱中症疑い	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	不明
13	8	5	男	波打ち際で砂遊びをしていた際に痙攣	なし	なし	なし	あり	内	内	10分	なし
14	8	60代	男	波打ち際で自立不可、右片麻痺と構音障害、脳卒中疑い	なし	あり	なし	あり	内	内	5分	不明
15	8	不明	女	SUP上で気分不快	なし	あり	なし	あり	内	内	4分	なし
16	8	43	男	ボディサーフィン中に肩から落ち肩の脱臼疑い	なし	あり	なし	あり	内	内	4分	なし
17	8	17	男	ビーチで遊んでいる最中に肩の脱臼	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	なし
18	8	26	女	酩酊状態	なし	あり	なし	あり	内	内	5分	あり
19	8	21	男	遊泳中に溺水	なし	あり	あり	あり	内	外	18分	不明
20	8	17	男	陸域で痙攣、てんかんの既往あり	なし	なし	なし	あり	内	外	1分以内	なし
21	8	15	女	気分不快、嘔吐	なし	あり	あり	あり	内	外	1分以内	なし
22	8	49	女	海水浴場内の突堤で足を踏み外し挫創	なし	あり	なし	あり	内	内	2分	なし

No.	月	年齢	性別	状況	救助方法	意識	溺水	救急搬送	監視時間	遊泳エリア	発生または覚知から接触	飲酒
23	8	13	男	岩場で遊んでいて足を切った	なし	あり	なし	あり	内	内	5分	なし
24	8	51	女	波打ち際で遊泳中に波に巻かれて顔面を負傷	なし	あり	なし	あり	内	内	10分	なし
25	8	48	男	サーフィン中に波に巻かれ自身のサーフボードが接触し負傷	なし	あり	なし	あり	内	外	10分	なし
26	8	不明	男	遊泳中に溺水	なし	レスキューボードあり	あり	あり	内	内	1分以内	あり
27	8	40代	女	砂浜で嘔吐	なし	あり	なし	あり	内	外	1分以内	不明
28	8	不明	不明	クラゲに刺され強い疼痛	なし	なし	なし	あり	内	内	1分以内	不明
29	8	54	女	ボディボード中に波に巻かれて肩を負傷	なし	あり	なし	あり	内	内	2分	不明
30	8	41	男	ボディボード中に波に巻かれて左肩を脱臼	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	不明
31	8	不明	女	遊泳中に波打ち際でエイに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	不明
32	8	不明	不明	海の家で飲酒中に酩酊状態	なし	なし	なし	あり	内	内	1分以内	あり
33	8	60代	男	陸域で熱中症疑い	なし	不明	なし	あり	内	内	1分以内	不明
34	8	不明	男	海を家の扉に顔面を強打	なし	あり	なし	あり	内	内	不明	不明
35	8	不明	女	遊泳中に波打ち際でエイに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	1分以内	不明
36	8	不明	不明	サーフィン中に浅瀬でエイに刺された	なし	なし	なし	あり	内	内	不明	不明
37	8	46	女	バナナボート乗船中、カーブした遠心力で落水し水面に腰を打った	なし	あり	なし	あり	内	外	5分	なし
38	8	17	男	サーフィン中に波に巻かれ負傷、頭痛と吐気あり	なし	あり	なし	あり	内	外	70分	なし
39	8	81	女	陸域で熱中症疑い	なし	あり	なし	あり	内	外	1分以内	なし
40	8	50代	男	遊泳中にパニック状態になり溺水	フィン無しレスキューチューブレスキューボード	あり	あり	あり	内	内	1分以内	不明
41	8	50	男	サーフィン中に浅瀬でエイに刺された	なし	あり	なし	あり	内	内	3分	不明

救急搬送事例 [CPR 実施]

No.	月	年齢	性別	発生状況	溺水	海 / 陸	監視時間	遊泳エリア	目撃	発生または覚知から接触	接触時	発生または覚知から CPR 開始	AED 使用	ショック	自己心拍再開	社会復帰
1	7	49	男	飲酒をして遊泳し溺水	あり	海	内	外	なし	3分	心肺停止	5分	なし	なし	不明	なし
2	7	15	男	遊泳中に溺水	あり	海	内	内	なし	5分	非心肺停止	1分(1s以外)	なし	なし	あり	あり
3	8	56	男	サーフィン中に溺水	あり	海	内	外	なし	5分	非心肺停止	1分(1s以外)	なし	なし	あり	不明
4	8	52	男	ボディボード中に波に巻かれ溺水	あり	海	内	内	あり	1分以内	心肺停止	1分	あり	なし	あり	不明
5	8	54	男	シュノーケリング中に溺水	あり	海	内	内	なし	1分以内	心肺停止	1分	あり	なし	なし	なし
6	8	61	男	遊泳中にリップカレントに流され溺水	あり	海	内	内	なし	1分以内	心肺停止	4分	あり	なし	不明	なし
7	8	54	男	海岸付近の公道で交通事故	なし	陸	内	外	あり	6分	心肺停止	6分	なし	なし	不明	不明

CPR 実施事例

国内で溺水の実態を示すデータが存在しないため、JLA 協会が収集するデータの意義は非常に大きい。データを協会に提出していただいた各クラブにはまず感謝申し上げます。

2024 年度は 7 例の『CPR 症例』が報告されました。No.7 は交通外傷によるものです。外傷による心停止は、溺水とは病態、治療、予後が大きく異なりますが、ライフセーバーの活動ということで表に加えておきます。水中における溺水関連の心停止は 6 例でした。

細かくみていくと、No.2 と No.3 はライフセーバー接触時には心停止ではありませんでした。しかし一般の人が心停止と思ったというのは、やはり心停止のリスクがそれなりに大きかったものと考えられます。このような場合に対してもライフセーバーによる迅速な救助救命活動は生命予後には少なからず好影響をもたらすと言えます。

実際に溺水による心停止が考えられるのは、上記以外の 4 例となります。49 歳～ 61 歳といった壮年期のすべて男性でした。すべて監視時間内です。飲酒は No.1 の症例で、監視エリア外、目撃なし、覚知から CPR 開始までは 5 分

でのちに死亡と報道されたようです。やはり飲酒をしての遊泳は厳禁であることは強調されなくてはなりません。

それ以外の 3 例は監視エリア内での発生です。目撃ありは 1 例で、1 分以内に CPR が開始され、現場で心拍再開を果たしました。目撃なしの 2 例は、迅速に CPR が開始されましたが、のちに死亡されています。

まとめると、2024 年度は溺水に関わる心停止は 4 例、うち 1 例が目撃ありで、ライフセーバーが迅速に CPR を開始し心拍が再開しました。すなわち予後が良好であったものは 4 例中 1 例 (25%) でした。やはりしっかりした監視によって心停止を見逃さない、そして確実な技能に保証された質の高い CPR を実施することは、水辺の救助救命に重要であると言えます。

レスキューレポート提出事例

2024 年度は 41 件のレポートが上がりました (CPR 実施事例を除く)。性別は男性 24、女性 12 と男性に多く (不明 5)、年齢は 10 代 6 人、20 代 4 人、40 代 6 人、50 代 5 人、60 代 4 人とほぼすべての年齢層に分布していました (不明 11)。発生に関して監視時間内 40 (98%)、エリ

ア内 31 (76%) でした。

傷病内容として多いものは、外傷 13 人 (32%)、溺水 7 人 (17%)、エイ・クラゲ刺傷 6 (15%)、熱中症 3 人 (7%) でした。

ライフセーバー接触時に意識なしは 8 人 (20%) と多く、また飲酒も 9 例 (22%) と相変わらず多く見られました。

全例で救急搬送が行われたことは適切であったと思われます。その中でも特に重症な病態が予測されるものとしては、意識障害、溺水後の意識障害、けいれん、転落・波に巻きこまれて四肢麻痺、手足の麻痺と構語障害 (脳卒中疑い)、熱中症などがありました。

溺水、熱中症などは必発です。また頻度は多くありませんが、波に揉まれて頸髄損傷になった例も毎年どこかの浜で必ず発生します。脳卒中や心筋梗塞といった重篤な病態は、頻度は多くありませんが、やはり報告例には上がってきます。こういった傷病には、こういった対応をすべきなのか予め考えておくのが良いでしょう。

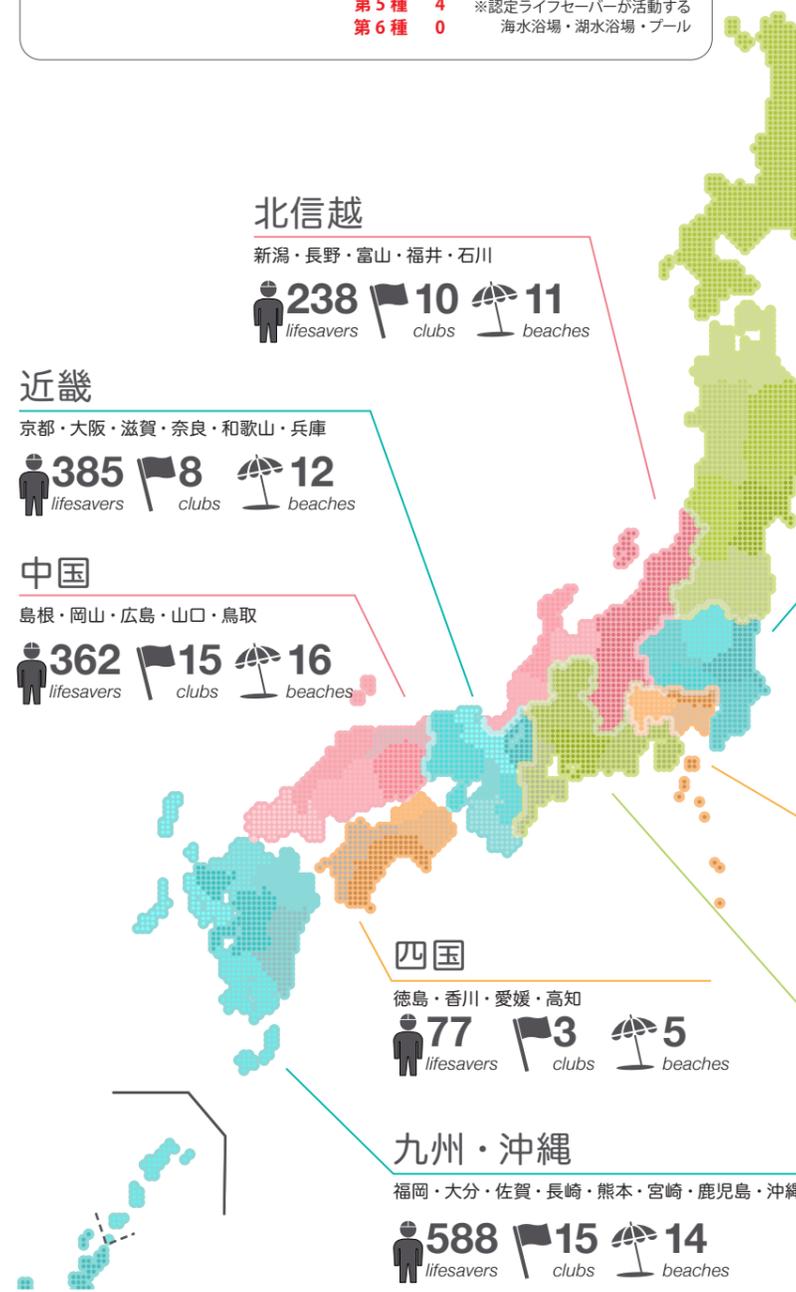
CPR … Cardiopulmonary Resuscitation (心肺蘇生法)

救急蘇生委員会委員長・メディカルダイレクター
中川 儀英



加盟クラブ

Total



第1種・第2種クラブ / 117

- [北海道ライフセービング協会加盟] 3
小樽ライフセービングクラブ
札幌ライフセービングクラブ
神威ライフセービングクラブ
- [岩手県ライフセービング協会加盟] 3
釜石ライフセービングクラブ
つがるライフセービングクラブ
盛岡ライフセービングクラブ
- [山形県ライフセービング協会加盟] 1
山形ライフセービングクラブ
- [宮城県ライフセービング協会加盟] 1
気仙沼ライフセービングクラブ
- [福島県ライフセービング協会加盟] 1
いわきサーフライフセービングクラブ

- [新潟県ライフセービング協会加盟] 4
柏崎ライフセービングクラブ
親不知ライフセービングクラブ
佐渡ライフセービングクラブ
新潟青山ライフセービングクラブ
- [富山県ライフセービング協会加盟] 3
富山ライフセービングクラブ
滑川ライフセービングクラブ
八重津浜ライフセービングクラブ
- [福井県ライフセービング協会加盟] 1
若狭和田ライフセービングクラブ
- [茨城県ライフセービング協会加盟] 5
大洗サーフライフセービングクラブ
大竹サーフライフセービングクラブ
波崎サーフライフセービングクラブ
鹿嶋ライフガードチーム
常陸サーフライフセービングクラブ
- [千葉県ライフセービング協会加盟] 9
御宿ライフセービングクラブ
勝浦ライフセービングクラブ
館山サーフライフセービングクラブ
銚子ライフセービングクラブ
九十九里ライフセービングクラブ
和田浦ライフセービングクラブ
岩井ライフセービングクラブ
鴨川ライフセービングクラブ
白浜ライフセービングクラブ
- [東京都ライフセービング協会加盟] 17
東京消防庁ライフセービングクラブ
新島ライフセービングクラブ
(有) ノバック
アート・オブ・スペース
伊豆大島ライフセービングクラブ
S-SENSE CLUB
お台場ライフセービングクラブ
KITAJIMAQUATICS
八丈島ライフセービングクラブ
神津島ライフセービングクラブ
三多摩ライフセービングクラブ
式根島ライフセービングクラブ
世田谷イミングアカデミー
ピチェリンライフセービングクラブ
ふるさと東京を考える実行委員会ライフセービングクラブ
慶應義塾幼稚舎ライフセービングクラブ
三宅島サーフライフセービングクラブ
- [神奈川県ライフセービング協会加盟] 17
葉山ライフセービングクラブ
鎌倉ライフガード
湘南ひらつかライフセービングクラブ
湘南ウォーターセーフティ協会
西浜サーフライフセービングクラブ
湯河原ライフセービングクラブ
三浦サーフライフセービングクラブ
大磯ライフセービングクラブ
SURF 90 鎌倉ライフセービングクラブ
サーフ 90 藤沢ライフセービングクラブ
サーフ 90 茅ヶ崎ライフセービングクラブ
湘南 GoldenAge アカデミー
逗子サーフライフセービングクラブ
茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
辻堂ライフセービングクラブ
由比が浜 サーフライフセービングクラブ
横浜海の公園ライフセービングクラブ
- [静岡県ライフセービング協会加盟] 14
熱川ライフセービングクラブ

- 熱海ライフセービングクラブ
下田ライフセービングクラブ
今井浜サーフライフセービングクラブ
土肥ライフセービングクラブ
南伊豆ライフセービングクラブ
西伊豆ライフセービングクラブ
松崎ライフセービングクラブ
沼津ライフセービングクラブ
浜松ライフセービングクラブ
牧之原ライフセービングクラブ連合
御浜沼津ライフセービングクラブ連合
御浜ライフセービングクラブ
用宗ライフセービングクラブ
- [愛知県ライフセービング協会加盟] 4
愛知ライフセービングクラブ
伊勢志摩ライフセービングクラブ
鬼崎サーフライフセービングクラブ
尾鷲ライフセービングクラブ
- [大阪府ライフセービング協会加盟] 2
大阪ライフセービングクラブ
せんなん里海公園・淡輪ライフセービングクラブ
- [京都府ライフセービング協会加盟] 2
天橋立ライフセービングクラブ
近江舞子ライフセービングクラブ
- [兵庫県ライフセービング協会加盟] 2
淡路島ライフセービングクラブ
神戸ライフセービングクラブ
- [鳥取県ライフセービング協会加盟] 2
皆生ライフセービングクラブ
岩美ライフセービングクラブ
- [島根県ライフセービング協会加盟] 1
キラライフセービングクラブ
- [岡山県ライフセービング協会加盟] 1
岡山ライフセービングクラブ赤十字奉仕団
- [広島県ライフセービング協会加盟] 3
安芸ライフセービングクラブ
広島サーフライフセービングクラブ
福山ライフセービングクラブ
- [山口県ライフセービング協会加盟] 5
コバルトブルー下関ライフセービングクラブ
関門ライフセービングクラブ
萩サーフ・ライフセービング・クラブ
光ライフセービングクラブ
山口ライフセービングクラブ
- [香川県ライフセービング協会加盟] 2
香川ライフセービングクラブ
女木島ライフセービングクラブ
- [徳島県ライフセービング協会加盟] 1
日亜ライフセービングクラブ
- [福岡県ライフセービング協会加盟] 5
新宮ライフセービングクラブ
博多サーフライフセービングクラブ
福岡ライフセービングクラブ
福岡サンセットショアライフセービングクラブ
宗像ライフセービングクラブ
- [大分県ライフセービング協会加盟] 3
大分市ライフセービングクラブ
熊本ライフセービングクラブ
北熊ライフセービングクラブ
- [長崎県ライフセービング協会加盟] 2
長崎県北ライフセービングクラブ
99 長崎ライフセービングクラブ
- [鹿児島県ライフセービング協会加盟] 2
かどしま磯ライフセービングクラブ
屋久島ライフセービングクラブ

- [沖縄県ライフセービング協会加盟] 1
マリナーズ沖縄ライフセービングクラブ

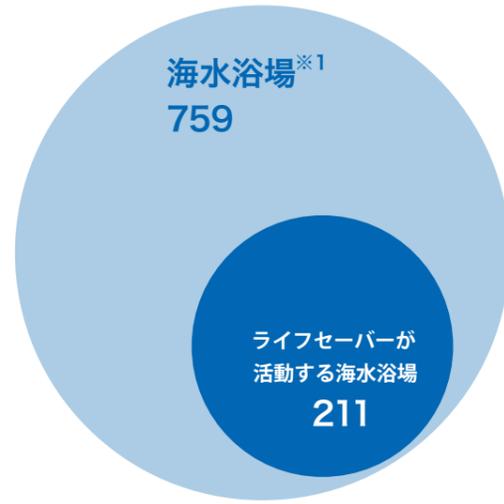
第3種・第4種・第5種・第6種クラブ / 56

- 札幌国際大学水泳部ライフセービングチーム
北海道医療大学マリナーズサークル
吉田学園ライフセービング部
仙台大学ライフセービングクラブ
福井県立大学ライフセービング部
新潟産業大学ライフセービング部
茨城大学サーフライフセービングクラブ
流通経済大学ライフセービングクラブ
筑波大学ライフセービング部
国際武道大学ライフセービングクラブ
順天堂大学ライフセービングクラブ
拓殖大学ライフセービング部
日本体育大学ライフセービング部
杏林大学ライフセービング部
国士館大学ライフセービング
実践女子大学ライフセービング部
成城大学ライフセービングクラブ
中央大学ライフセービングクラブ
帝京大学ライフセービングクラブ
東京女子体育大学ライフセービング部
東洋大学サーフライフセービングクラブ
日本女子体育大学ライフセービングクラブ
明治大学サーフライフセービングクラブ
早稲田大学ライフセービングクラブ
國學院大学ライフセービングクラブ
国際基督教大学ライフセービングクラブ
玉川大学ライフセービングクラブ
武蔵野大学ライフセービングクラブ
明治学院大学ライフセービングクラブ
立教大学ライフセービングクラブ
東海大学湘南体育会ライフセービングクラブ
青山学院大学ライフセービングクラブ
神奈川大学ライフセービングクラブ
慶應義塾大学ライフセービングクラブ
成蹊大学体育会ライフセービング部
専修大学サーフライフセービング愛好会
日本大学サーフライフセービングクラブ ZIPANG
文教大学ライフセービングクラブ
法政大学サーフライフセービングクラブ
上智大学サーフライフセービングクラブ
桐蔭横浜大学ライフセービングクラブ
東海大学静岡キャンパスライフセービングクラブ LOCO
日本福祉大学ライフセービングクラブ
名古屋工業大学ライフセービングクラブ
中京大学ライフセービングクラブ
大阪体育大学ライフセービングクラブ
明治国際医療大学ライフセービングクラブ
岡山理科大学ライフセービングクラブ
環太平洋大学ライフセービングクラブ
鳥取大学寮ライフセービングクラブ
九州産業大学ライフセービングクラブ
福岡大学ライフセービングクラブ
成城学園高等学校ライフセービングクラブ
日本体育大学荏原高等学校ライフセービングクラブ
昭和第一学園高等学校ライフセービング部
十文字高校ライフセービングクラブ

ライフセーバーが活動する海水浴場等

全国に 759 か所 ※1 ある海水浴場のうち、
JLA 資格を有する認定ライフセーバーは
211 か所 (28%) で活動しています。

認定ライフセーバーとは、JLA アカデミーが発行するベーシックサーフライフセーバー、プールライフガード以上の資格保有者を指します。



※1 環境省調べ (2024 年)

※青字は JLA 認定海水浴場です

福岡県	
宗像市	北斗の水くみ海浜公園
新宮町	新宮海岸
福津市	福岡海水浴場
福岡市	シーサイドももち海浜公園

大分県	
大分市	田ノ浦海水浴場

長崎県	
平戸市	千里ヶ浜海水浴場

熊本県	
苓北町	福岡海水浴場

鹿児島県	
屋久島町	一瀬海水浴場
	春田浜海水浴場
	粟生浜海水浴場
天城町	与名間ビーチ

沖縄県	
座間味村	阿真ビーチ海水浴場
	古座間味ビーチ海水浴場
	北浜ビーチ海水浴場

徳島県	
徳島市	小松海水浴場
阿南市	北の脇海水浴場

高知県	
香南市	ヤシィ・パーク

香川県	
さぬき市	津田の松原海水浴場
高松市	女木島海水浴場

鳥取県	
米子市	皆生温泉海水浴場
岩美町	浦富海水浴場
鳥取市	賀露みなと海水浴場

島根県	
出雲市	岐久海岸海水浴場
浜田市	姉が浜海水浴場
江津市	波子海水浴場

岡山県	
玉野市	渋川海水浴場

広島県	
廿日市市	包ヶ浦海水浴場
呉市	県民の浜
	狩留賀海浜公園海水浴場
安芸郡	ベイサイドビーチ坂
福山市	クレセントビーチ海浜公園

山口県	
下関市	ホテル西長門リゾートビーチ
萩市	菊ヶ浜海水浴場
長門市	二位ノ浜海水浴場
周南市	長田海浜公園

愛知県	
南知多町	内海海水浴場 (千鳥ヶ浜)
知多市	新舞子ブルーサンビーチ
田原市	白谷海水浴場
	仁崎海水浴場
常滑市	りんくうビーチ

三重県	
志摩市	大矢浜海水浴場

滋賀県	
大津市	近江舞子中浜水泳場

京都府	
宮津市	天橋立海水浴場
	天橋立府中海水浴場
	丹後由良海水浴場

大阪府	
泉南市	淡輪海水浴場
	樽井サザンビーチ

和歌山県	
和歌山市	片男波海水浴場
	磯ノ浦海水浴場
白浜町	白良浜海水浴場

兵庫県	
神戸市	須磨海水浴場
	アジュール舞子海水浴場
淡路市	浦県民サンビーチ

静岡県	
東伊豆町	熱川 you 湯ビーチ海水浴場
河津町	今井浜海水浴場
下田市	白浜中央海水浴場 / プリンスホテル下 白浜中央海水浴場 白浜大浜海水浴場 外浦海水浴場 鍋田浜海水浴場 多々戸浜海水浴場 入田浜海水浴場 舞磯浜海水浴場 吉佐美大浜海水浴場
南伊豆町	弓ヶ浜海水浴場 ヒリソ浜海水浴場
松崎町	松崎海水浴場 石部海水浴場 雲見海水浴場 岩地海水浴場
西伊豆町	大浜海水浴場 浮島海水浴場 田子瀬浜海水浴場 乗浜海水浴場 深田クリスタルビーチ 黄金崎海水浴場
伊豆市	土肥海水浴場 小土肥海水浴場
沼津市	御浜海水浴場 井田海水浴場
静岡市	用宗海水浴場
牧之原市	静波海水浴場 さがらサンビーチ海水浴場
湖西市	新居井天海水浴場
浜松市	弁天島海浜公園

東京都	
八王子市	八王子室内プール
福生市	福生市営プール
新島村	黒根海水浴場
	前浜第二海水浴場
	前浜第四海水浴場
	羽伏浦海水浴場
	間々下海水浴場
	渡浮根海水浴場
	若郷前浜海水浴場
	泊港海水浴場
	大浦海水浴場
	中の浦海水浴場
	石白川海水浴場
神津島村	前浜海水浴場
	多幸湾海水浴場
	赤崎海水浴場
	沢尻海水浴場
大島町	トウシキ海水浴場
	日の出浜海水浴場
三宅村	錆ヶ浜海水浴場
	三池浜海水浴場
	大船渡海水浴場
	長太郎池海水浴場
	大久保浜海水浴場
八丈町	底土海水浴場

千葉県	
銚子市	海鹿島海水浴場 銚子マリナ海水浴場
	長崎海水浴場
旭市	矢指ヶ浦海水浴場
横芝光町	屋形海水浴場
山武市	殿下海水浴場 中下海水浴場 小松海水浴場 白幡・井之内海水浴場 本須賀海水浴場
九十九里町	作田海水浴場 片貝海水浴場 不動堂海水浴場 真亀海水浴場
御宿町	御宿岩和田海水浴場 御宿中央海水浴場 御宿浜海水浴場
勝浦市	勝浦中央海水浴場 鶴原海水浴場 守谷海水浴場 興津海水浴場
鴨川市	前原海水浴場 太海海水浴場 江見海水浴場 内浦海水浴場 城崎海水浴場 和田浦海水浴場
南房総市	根本海水浴場 名倉海水浴場 塩浦海水浴場 豊岡海水浴場 原岡海水浴場 多々良北浜海水浴場 岩井海岸中央海水浴場 岩井海岸高崎海水浴場 岩井海岸第一海水浴場 瀬戸浜海水浴場 南千倉海水浴場

東京都 (続)	
館山市	北条海水浴場 新井海水浴場 沖ノ島海水浴場 波左間海水浴場
鋸南町	勝山海水浴場 大六海水浴場 鱈ヶ浦海水浴場 保田中央海水浴場 元名海水浴場 富津海水浴場 上総湊海水浴場 新舞子海水浴場 大貫海水浴場
富津市	

[茨城県]	
大洗町	大洗サンビーチ
鹿嶋市	下津海水浴場 平井海水浴場
神栖市	波崎海水浴場 日川海水浴場
高萩市	高萩海水浴場
北茨城市	磯原二ツ島海水浴場

東京都 (続)	
茅ヶ崎市	サザンビーチ茅ヶ崎海水浴場 茅ヶ崎東海岸ヘッドランド 瀬戸マールビーチパーク海水浴場
平塚市	
大磯町	大磯海水浴場
湯河原町	湯河原海水浴場

北海道	
苫前町	とままた陽ヶ丘ホワイトビーチ
羽幌町	はぼろサンセットビーチ
小樽市	おたるドリームビーチ
石狩市	石狩浜海水浴場 厚田海浜プール

青森県	
つがる市	マグアビーチ海水浴場 出来島海水浴場

岩手県	
釜石市	根浜海岸海水浴場
大槌町	浪板海岸海水浴場 吉里吉里海岸海水浴場

宮城県	
気仙沼市	小田の浜海水浴場

山形県	
遊佐町	西浜海水浴場

福島県	
いわき市	勿来海水浴場 波立海水浴場
会津若松市	崎川浜湖水浴場

新潟県	
柏崎市	石地海水浴場 鯨波海水浴場 東の輪海水浴場 番神海水浴場
新潟市	小針浜海水浴場
佐渡市	佐和田海水浴場
糸魚川市	親不知海水浴場 糸魚川海水浴場

富山県	
射水市	海老江海浜公園海水浴場
富山市	八重津浜海水浴場

福井県	
高浜町	若狭和田海水浴場



監視救助事業

監視救助業務

監視救助事業とは、海岸や河川、プール等の水辺に海水浴客やスポーツイベント等の来客が訪れた際、その監視と救助を行う事業である。

本協会では静岡県、東京都、和歌山県、神奈川県内の自治体から各海水浴場の監視救助活動業務の依頼を受けて事業を実施した。また、その他の自治体については、都道府県協会又は各加盟クラブがその依頼を受けて事業を実施しており、本協会はそれらについては活動支援を行った。

海水浴場名	地区	期間
1 新島地区・黒根浜海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
2 新島地区・第二前浜海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
3 新島地区・第四前浜海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
4 新島地区・間々下浦海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
5 新島地区・若郷前浜海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
6 新島地区・羽伏浦海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
7 式根島地区・泊海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
8 式根島地区・大浦海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
9 式根島地区・中の浦海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
10 式根島地区・石白川海水浴場	東京都新島村	8/1-8/31
11 三宅島地区・錆が浜海水浴場	東京都三宅村	8/1-8/15
12 三宅島地区・三池浜海水浴場	東京都三宅村	8/1-8/15
13 三宅島地区・伊ヶ谷浜海水浴場	東京都三宅村	8/1-8/15
14 三宅島地区・大久保浜海水浴場	東京都三宅村	8/1-8/15
15 三宅島地区・長太郎池海水浴場	東京都三宅村	8/1-8/15
16 神奈川県協定事業① 海岸巡視業務(エリアマネージャー)	三浦市 / 横須賀市エリア 東部エリア(葉山~腰越) 中央エリア(東浜~茅ヶ崎) 西部エリア(平塚~湯河原)	7/6-8/31までの土日祝 7/16-8/16までの平日
17 神奈川県協定事業② 海岸水難事故防止活動業務	三浦市 三浦海岸	7/6-8/31までの土日祝 7/16-8/16までの平日
18 神奈川県協定事業③ 神奈川県LS協会との共同事業 海岸水難事故防止活動業務	三浦市 大浦海岸	7/6-8/31までの土日祝 7/16-8/16までの平日
19 神奈川県協定事業④ 海岸水難事故防止活動業務	三浦市 横堀海岸	7/6-8/31までの土日祝 7/16-8/16までの平日
20 熱川温泉 You 湯ビーチ	静岡県東伊豆町	7/13-8/25
21 今井浜海水浴場	静岡県河津町	7/20-8/25
22 土肥海水浴場	静岡県伊豆市	7/13-8/25
23 小土肥海水浴場	静岡県伊豆市	7/13-8/25
24 大浜海水浴場	静岡県西伊豆町	7/27-8/25
25 乗浜海水浴場	静岡県西伊豆町	7/27-8/25
26 浮島海水浴場	静岡県西伊豆町	7/27-8/25
27 田子瀬浜海水浴場	静岡県西伊豆町	7/27-8/25
28 黄金崎海水浴場	静岡県西伊豆町	7/27-8/25
29 深田海水浴場	静岡県西伊豆町	7/27-8/25
30 松崎海水浴場	静岡県松崎町	7/13-8/18
31 岩地海水浴場	静岡県松崎町	7/13-8/18
32 石部海水浴場	静岡県松崎町	7/13-8/18
33 雲見海水浴場	静岡県松崎町	7/13-8/18
34 白良浜海水浴場	和歌山県白浜町	5/3-9/30

スポーツイベント安全管理

スポーツイベント（* オープンウォータースイミングやトライアスロン、競泳等）の監視とその救助を行った。

主催 事業内容（イベント名）	開催日	ライフセーバー （参加延人数）	会場
一般社団法人千葉県水泳連盟 日本マスターズ水泳短水路大会 2024	4/20-4/21（2日間）	12名	千葉国際総合水泳場
アジアトライアスロン選手権 2024 廿日市市実行委員会 ASTC アジアトライアスロン選手権 2024 廿日市大会	4/20-4/21（2日間）	27名	廿日市市役所周辺特設会場
一般社団法人千葉県トライアスロン連合 第15回館山わかしおトライアスロン大会	5/25-5/26（2日間）	21名	沖ノ島周辺と海上自衛隊 館山航空基地内の特設会場
一般社団法人日本アウトリガーカヌー協会 JOCACUP 第3回全日本アウトリガーカヌー選手権	5/26（1日間）	6名	逗子海岸
公益財団法人日本水泳連盟 OWS オーシャンズカップ館山 2024	6/15-6/16（2日間）	27名	館山市北条海岸
公益財団法人日本ローイング協会 第102回全日本ローイング選手権大会	6/20-6/23（4日間）	36名	海の森水上競技場
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 第27回日本知的障害者選手権水泳競技大会	6/30（1日間）	6名	横浜国際プール
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 第39回日本マスターズ水泳選手権大会	7/3-7/7（5日間）	49名	東京アクアティクスセンター
公益財団法人東京都水泳協会 東京 OWS 大島 2024	7/6-7/7（2日間）	23名	大島町 OWS スイムエリア
館山 OWS 2024 実行委員会 館山 OWS 2024	7/13-7/14（2日間）	27名	館山市北条海岸
一般社団法人青森県水泳連盟 青森あざむし温泉 OWS 大会 2024	8/31-9/1（2日間）	35名	サンセットビーチあざむし OWS 特設会場
SAGA2024 国スポ・全障スポ伊万里市実行委員会 SAGA2024 国スポ・全障スポ OWS 競技大会	9/9-9/11（3日間）	41名	イマリビーチ
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 第2回日本マスターズ水泳チーム対抗競技大会	9/15-9/16（2日間）	20名	日本ガイシアリーナ
アジアトライアスロン・パラトライアスロンカップ 2024 東京・海の森実行委員会 アジアトライアスロン・パラトライアスロンカップ 2024	9/22-9/23（2日間）	27名	海の森水上競技場
公益財団法人日本水泳連盟 第100回日本選手権水泳競技大会 OWS 競技	9/27-9/29（3日間）	43名	館山市北条海岸
一般社団法人泉南スポーツコミッション協会 泉南 OWS 大会 2024	10/5-10/6（2日間）	33名	タリイサザンビーチ
SAGA2024 国スポ・全障スポ唐津市実行委員会 SAGA2024 国スポ・全障スポトライアスロン競技会	10/5-10/6（2日間）	24名	唐津市波戸岬・名護屋特設会場
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 第27回日本知的障害者選手権（25m）水泳競技大会	10/6（1日間）	5名	立教学院セントポールズ・ アクアティックセンター
公益財団法人日本水泳連盟 第100回日本学生選手権 OWS 競技大会	10/12-10/14（3日間）	34名	館山市北条海岸
千葉シティトライアスロン大会実行委員会 2024 千葉シティトライアスロン大会	10/18-10/20（3日間）	43名	稲毛海浜公園周辺
須崎 OWS2024 大会実行委員会 須崎 OWS 大会 2024	10/19-10/20（2日間）	32名	須崎市立スポーツセンター シーパーク大島
一般社団法人千葉県水泳連盟 第24回千葉マスターズ水泳選手権大会	10/19-10/20（2日間）	12名	千葉国際総合水泳場
公益社団法人日本トライアスロン連合 ワールドトライアスロンカップ 2024	11/8-11/10（3日間）	46名	みやぎき臨海公園
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 第11回日本マスターズ水泳スプリント選手権大会	11/16-11/17（2日間）	20名	インフロンア草津 アクアティックセンター
公益社団法人日本トライアスロン連合 トライアスロン日本選手権大会	11/17（1日間）	12名	東京お台場
一般社団法人日本マスターズ水泳協会 日本マスターズ水泳スプリント 2024 EAST 千葉	11/30-12/1（2日間）	20名	千葉国際総合水泳場
一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 第8回日本知的障害者選手権新春水泳競技大会	1/13（1日間）	6名	千葉国際総合水泳場
新春マスターズスイムミート 2025 実行委員会 新春マスターズスイムミート 2025	2/24（1日間）	4名	千葉国際総合水泳場



JOCA CUP 第3回全日本アウトリガーカヌー選手権



第102回全日本ローイング選手権大会



第27回日本知的障害者選手権水泳競技大会



東京都選手権 OWS 競技 in 大島 2024



第78回 佐賀県国民スポーツ大会 OWS 競技@伊万里市



第2回日本マスターズ水泳チーム対抗競技大会



第8回日本知的障害者選手権新春水泳競技大会



第11回日本マスターズ水泳スプリント選手権大会 west

水辺の溺水事故防止に向けた調査研究

ライフセービングレポート(全国パトロール統計:e-log)の集計および、レスキューレポート、傷病者等記録票の検証とフィードバック、水浴場調査を実施した。本協会に加盟するライフセービングクラブが全国において監視救助活動を行った結果を集計し、それを公表することで水辺の溺水事故防止につなげる事業である。

結果は例年本協会の事業報告書で公開し、2024年度においては報告水浴場計215か所(海水浴場211、湖水浴場2、プール2)、携わったライフセーバー総数は33,350人、パトロール延時間は259,993時間であった。

*詳細はP2~4のとおり

監視救助活動の推進に向けた器材等配備支援

全国のライフセーバー及びライフセービングクラブに対して、監視救助活動で活用する器材等の配備を行った。一部有償で支援を行っているが、原価及び管理経費による支出のため利益を伴う事業ではない。

■監視救助用ユニフォーム等の配備支援

対象：本協会認定資格所有者
内容：パトロールユニフォーム、パトロール水着等

監視救助用ユニフォーム	数量
パトロールユニフォーム長袖	268
パトロールユニフォーム半袖	503
ビーチパトロールシャツ半袖	43
プールライフセーバー半袖	20
サーフパンツ男子	505
サーフパンツ女子	181
男子水着ボクサー型1	0
男子水着ボクサー型2	115
男子水着ボクサー型3	96
男子水着ブーメラン型1	0
男子水着ブーメラン型2	50
男子水着ブーメラン型3	48
女子水着トップス型1	0
女子水着トップス型2	58
女子水着トップス型3	67
女子水着ボクサー型1	1
女子水着ボクサー型2	21
女子水着ボクサー型3	24
女子水着ブーメラン型1	6
女子水着ブーメラン型2	30
女子水着ブーメラン型3	51
女子水着ワンピース型3	15
ラッシュガード	85
サーフハット	0
つば付きキャップ	0
パトロールキャップ	300

■監視救助用器材等の配備支援

< 日本財団助成事業 >

対象：都道府県協会及び加盟クラブ
内容：レスキューボード/チューブ/ボード用ラック、IOT等を活用した監視救助システム

配備品	数量
レスキューボード	45本
レスキューチューブ	128本
AED	10機
津波フラッグ・エリアフラッグセット	18旗

高度化事業* IOT 監視救助システム(沖縄県恩納村アポガマビーチ) 1セット

■監視救助及び巡視等に対する車両配備支援

対象：都道府県協会
内容：主に海水浴場開設期間に車両「ライフセーバーカー」の貸出し
協賛：株式会社 SUBARU

年	都道府県協会数	車両台数
2024年	30 道府県 JLA 本部	36台
2024年	29 道府県 JLA 本部	32台
2024年	26 道府県 JLA 本部	29台
2024年	21 道府県	21台
2020年	3 県	12台

AIとIoTを活用した海辺のみまもりシステムの開発と運用

2019年に開発し、2024年までに全国6か所(千葉県御宿町中央海岸、宮崎県宮崎市青島ビーチ、福井県高浜町若狭和田海岸、神奈川県鎌倉市由比ガ浜海岸、神奈川県鎌倉市中央・材木座海岸、静岡県下田市吉佐美大浜海岸)で運用。このシステムは、AIが離岸流発生と離岸流エリアへの利用者の立ち入りをリアルタイムで自動検知し、離岸流発生時には、利用者のスマートフォンアプリとライフセーバーのスマートウォッチに通知、離岸流エリアへの利用者の立ち入りがあった際にはライフセーバーのスマートウォッチに救助要請を発報。さらに、津波注意報、警報発令時には、海岸利用者数を自動カウントし管轄行政の登録メールアドレスに海岸画像とともに通知、あらかじめ設定した間隔にて自動更新(通知)される。これにより、有事に海岸にどの程度の避難者がいて、時間経過とともに避難が進んでいるかを確認可能。この他、ヘルプシグナルの自動検知も試験運用中。2024年は、離岸流エリアに利用者が立ち入った際にドローンがその地点まで自動飛行し、注意喚起のアナウンスをして自動で戻ってくるシステムの本運用を若狭和田で行った。自然海岸でのシステム運用が初となる沖縄県恩納村アポガマビーチにて開発した。さらに、AIが離岸流を検知したエリアを利用者のスマートフォンのカメラを通して表示可能なARシステムの開発に成功した。

ウォーターセーフティアプリ(WS)の開発

前述のシステムと連動するスマートフォンアプリを2020年に開発し、全国のライフセーバーが活動する海水浴場情報とともに公開。

e-logの導入

ライフセーバーの活動記録の電子化を行い、2022年度より本運用。日々のデータが一元管理される。

e-logの運用により、リアルタイムでの集計が可能なることから7月~8月の夏季期間中に計4回の集計結果を都道府県協会、各ライフセービングクラブに報告することができた。また、日本財団「海のそなえプロジェクト」のHPを通じて夏季シーズン中に計7回の救助実績を公表し、溺水事故の原因を周知した。

ドローンパトロール

2021年、2022年に一部の地域で試験的に運用(神奈川県協定)。2023-2024年では本運用にむけ、神奈川県内海岸市町を対象に研修会と、広域ドローンパトロールを実施した。

また、若狭和田海水浴場において、海のみまもりシステムとドローン連携の本運用を行った。

JLA認定海水浴場認定事業

国際ライフセービング連盟のリスク評価指標及び本協会独自の指標に基づき海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「認定海水浴場認証事業」を行った。合計で43か所となっている。

▽新規5か所

1. 熱川You 湯ビーチ海水浴場(静岡県東伊豆町)
2. 今井浜海水浴場(静岡県河津市)
3. 石狩浜海水浴場(北海道石狩市)
4. 磯ノ浦海水浴場(和歌山県和歌山市)
5. 片男波海水浴場(和歌山県和歌山市)

▽更新12か所 更新3年

1. 白浜中央海水浴場(静岡県下田市)
2. 白浜大浜海水浴場(静岡県下田市)
3. 外浦海水浴場(静岡県下田市)
4. 多々戸浜海水浴場(静岡県下田市)
5. 入田浜海水浴場(静岡県下田市)
6. 吉佐美大浜海水浴場(静岡県下田市)
7. 北条海水浴場(千葉県館山市)
8. 本須賀海水浴場(千葉県山武市)
9. 逗子海水浴場(神奈川県逗子市)
10. 若狭和田海水浴場(福井県高浜町)
11. 須磨海水浴場(兵庫県神戸市)
12. 田ノ浦海水浴場(大分県大分市)

▽リスク評価1か所

- (ブルーフラッグ)
1. 吉里吉里海水浴場(岩手県大槌町)

海辺のみまもりシステム・開発、導入、有用性の検証 [システム運用後の離岸流事故数の変化]

2019年度：運用1か所、開発1か所
 2020年度：運用2か所、開発1か所
 2021年度：運用3か所、開発1か所
 2022年度：運用4か所、開発1か所
 2023年度：運用5か所、開発1か所
 2024年度：運用6か所、開発1か所

海辺のみまもりシステムが運用されている海水浴場では、ライフセーバーによる安全管理とシステムによる離岸流と要救助者の検知・通知により、**離岸流事故（離岸流に起因するレスキュー）**が大きく減少、もしくは**離岸流事故ゼロ**を実現しました。

■アイコンの説明



離岸流事故ゼロ

3rd Beach [開発 2020, 運用 2021-]
 福井県高浜町 若狭和田ビーチ



2nd Beach [開発 2019, 運用 2020-]
 宮崎県宮崎市 青島海水浴場



離岸流事故ゼロ* *改修工事等に伴い2023、2024年は休止

7th Beach [開発 2024, 運用 2025-]
 沖縄県国頭郡 恩納村アボガマ海岸



5th Beach [開発 2022, 運用 2023-]
 静岡県下田市 吉佐美大浜海水浴場



離岸流事故ゼロ

1st Beach [開発 2018, 運用 2019-]
 千葉県御宿町 御宿中央海水浴場



離岸流事故減少* *2023、2024年システム改修

4th Beach [開発 2021, 運用 2022-]
 神奈川県鎌倉市 由比ガ浜海岸



離岸流事故減少38%* *2024年の離岸流事故数/システム導入前(2014~2019年)平均離岸流事故数に利用者数を考慮して算出

6th Beach [開発 2023, 運用 2024-]
 神奈川県鎌倉市 鎌倉中央・材木座海水浴場

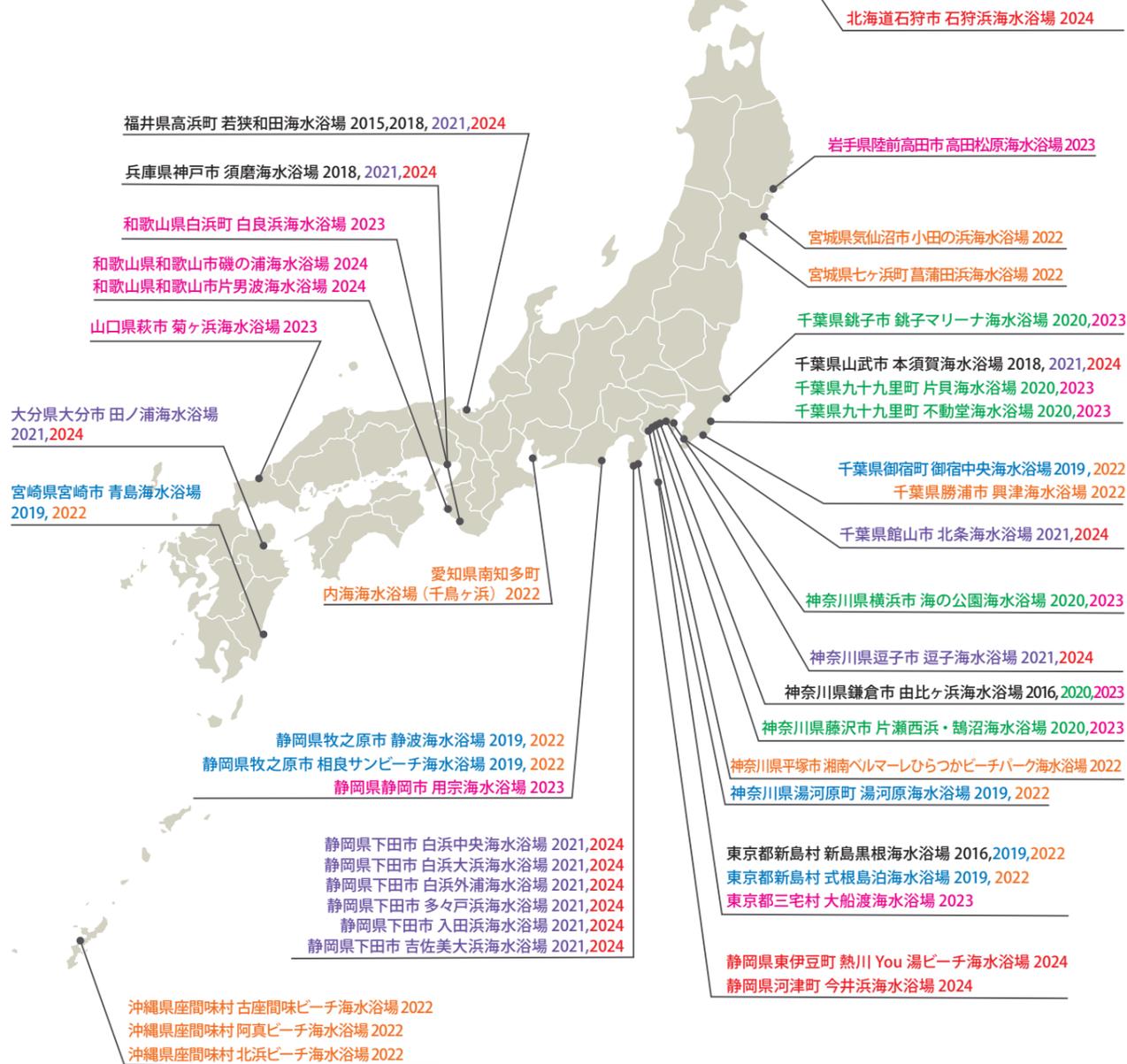


離岸流事故ゼロ

JLA 認定海水浴場

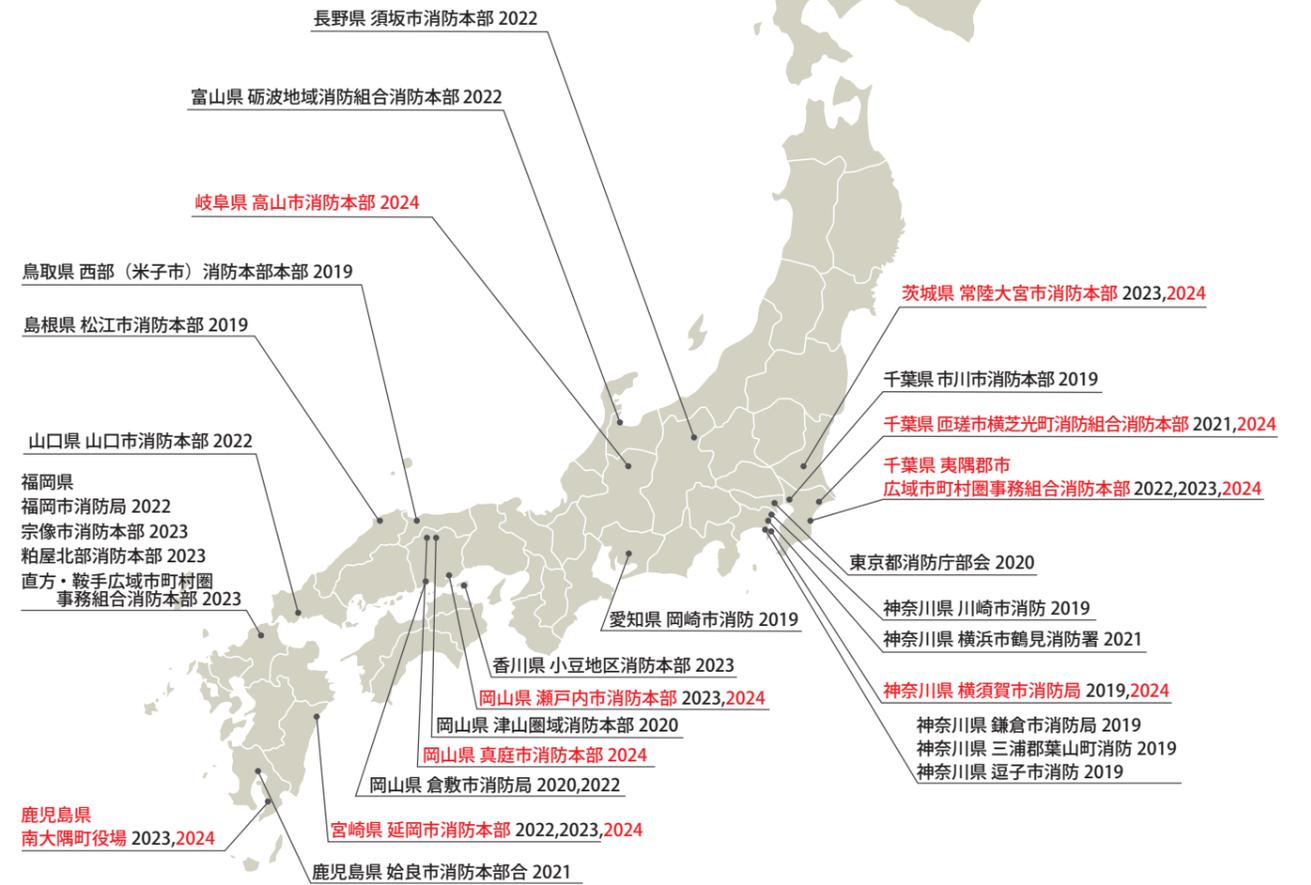
海水浴場リスク評価計 43 か所

- 2018 年度以前：5 か所
- 2019 年度：新規 6 か所, 更新 2 か所
- 2020 年度：新規 6 か所, 更新 1 か所
- 2021 年度：新規 8 か所, 更新 3 か所
- 2022 年度：新規 8 か所, 更新 7 か所
- 2023 年度：新規 5 か所, 更新 6 か所
- 2024 年度：新規 5 か所, 更新 12 か所



地域消防への IRB レスキュー技術提供

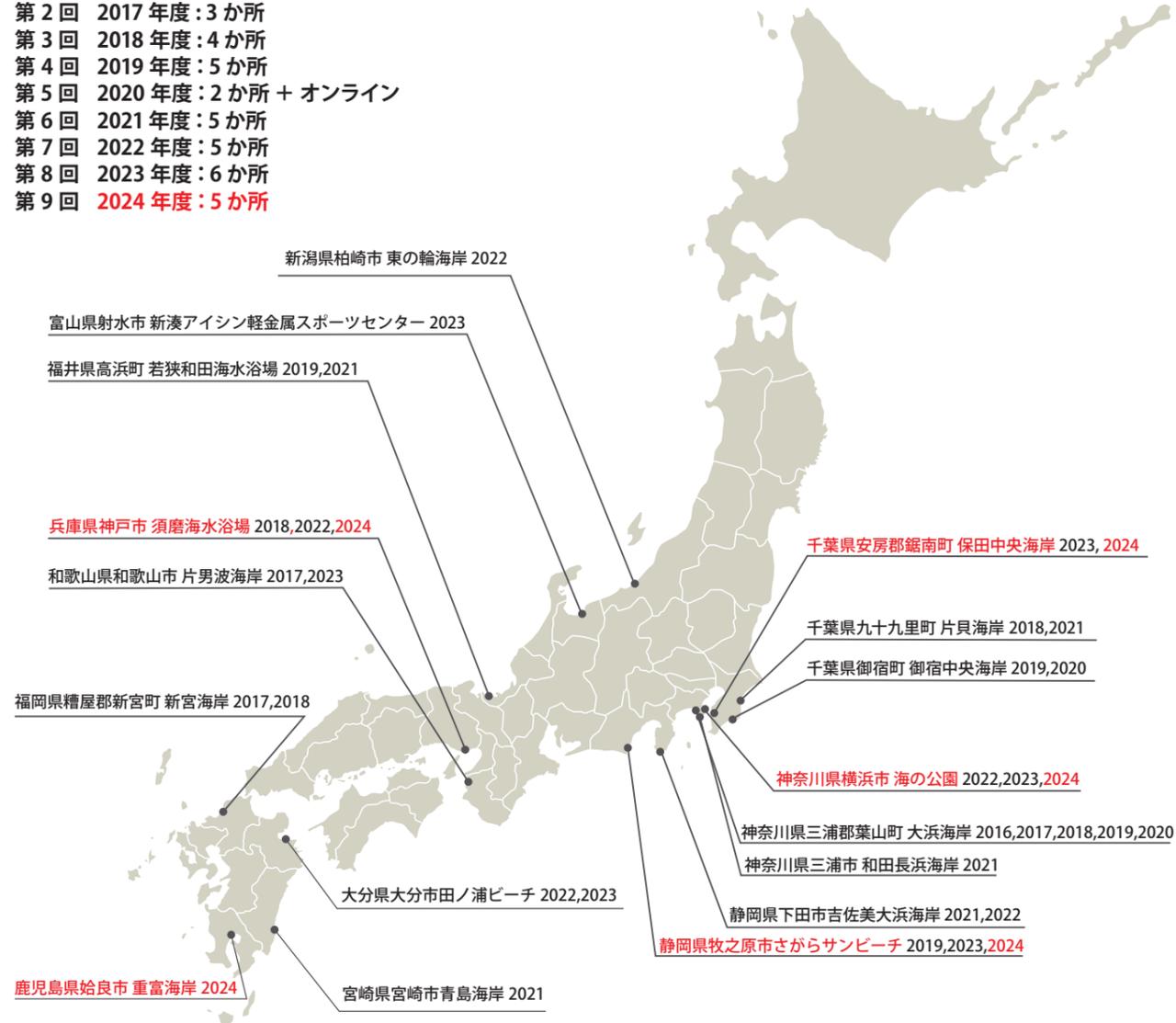
- 2019 年度：9 機関
- 2020 年度：4 機関
- 2021 年度：3 機関
- 2022 年度：7 機関
- 2023 年度：9 機関
- 2024 年度：9 機関



救助救命本部総括

シミュレーション審査会

- 第1回 2016年度：1か所
- 第2回 2017年度：3か所
- 第3回 2018年度：4か所
- 第4回 2019年度：5か所
- 第5回 2020年度：2か所 + オンライン
- 第6回 2021年度：5か所
- 第7回 2022年度：5か所
- 第8回 2023年度：6か所
- 第9回 2024年度：5か所



救助救命本部
本部長 石川 仁憲

e-log を本運用したことで、①利用者数が多い日にレスキュー数が多い、②要救助者は24歳以下が多い、③要救助者は男性が女性の約2倍、④レスキューは午前中から夕方まで一定数起きているが、昼すぎに多く、12時と14時台に多い、⑤浮き輪などの浮具を使用している利用者が要救助者になりやすいが、ECの場合は浮具なしが多い、⑥20～24歳は風に流されたことによる救助件数が最も多く、5～9歳は陥没や急深にはまることが原因の救助が離岸流に次いで多いこと等、新たな溺れに関する特徴が明らかになりました。2025年度も引き続きe-logの活用をよろしくお願いいたします。

2024年は、全国759か所の海水浴場（環境省）に対して211か所（28%）の海水浴場、2か所の湖水浴場、2か所のプールでライフセーバーが監視・救助活動を行いました（JLA登録クラブによる活動；延べ33350人）。

2024年のパトロールログ集計によれば、ライフセーバーが活動する水浴場数（213か所）は、Covid-19によるパンデミック前の2015～2019年の平均値199か所を超えたものの、総利用者数は392万人で2015～2019年の986万人の40%に留まりました。Preventive Action（意識ありの溺者の救助）は450件、Emergency Care（意識なしの溺者の救助）は8件であり、自然要因は従来と異なり、沖向きの風（162件）が最も多く次いで離岸流（125件）でした。一方、個人的要因は、泳力不足（259件）、疲労（81件）、パニック（76件）でした。また、ライフセーバーは溺水だけでなく、クラゲやエイなどの刺胞毒、熱中症、擦過傷、切創、捻挫、打撲など様々な傷病に対する応急手当を行っており、その件数は4,621件、また救急搬送は183件でした。

活動記録を電子化したe-logの運用により、リアルタイムでの集計が可能なることから、7月～8月の夏季期間中に計4回の集計結果を都道府県協会、各ライフセービングクラブに報告することができました。日本財団「海のそなえプロジェクト」のHPを通じて夏季シーズン中に計7回の救助実績等を公表し、溺水事故の要因を周知しました。また、海上保安庁など公的救助機関の速報と同時期の9月5日に2024年のレスキューやFA実績を193か所の速報版として公表することができました。このように、リアルタイムの集計結果報告、速報公表は、事故防止のための注意喚起として有効と考えます。また、

水辺・海辺の事故ゼロにむけて、様々なアプローチで確実に進めて参ります。引き続きよろしくお願いいたします。

資格認定事業

開催数と資格発行数

ライフセービングサポーター講習会

	2024 開催数	2024 発行数	2023 開催数	2023 発行数
BLS	98	5,954	77	4,039
ウォーターセーフティ	114	12,239	110	10,360

基礎資格認定講習会

	2024 開催数	2024 発行数	2023 開催数	2023 発行数
BLS	197	2,071	178	1,818
ウォーターセーフティ	139	1,329	129	1,155

認定ライフセーバー資格認定講習会

	2024 開催数	2024 発行数	2023 開催数	2023 発行数
ベーシック・サーフライフセーバー	79	778	70	683
アドバンス・サーフライフセーバー	26	178	23	157
IRB・クルー	12	59	8	38
IRB・ドライバー	11	44	7	25
プールライフガード	24	114	23	99
アドバンス・プールライフガード	3	10	6	14
リーダー	10	79	9	50
PWRC・クルー	4	37	6	39
PWRC・オペレーター	3	11	3	6
資格更新	117	599	111	724
資格復活	41	66	40	73
指導員養成(新規)	16	88	16	96
指導員養成(継続)	0	0	16	410

資格認定事業

以下の資格認定講習会、更新講習会及びライフセービングサポーター講習会は「JLA アカデミー」と称する教育機関が実施した。JLA アカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

■資格認定講習会及び更新講習会等の開催

本協会では、誰もが身につけるべき「自分自身を守る、溺れないためのプログラム」「目の前で人が倒れた場合の対処を学ぶプログラム」から、「実際に事故を未然に防ぎ、溺者を助ける救助技術」まで、水辺の事故をゼロにするための資格講習会を開催しており、それぞれのコースについての資格認定をしている。

*当該資格認定事業では、ライフセーバーを養成することを目的としていない。広く人命救助と水辺の事故の減少に資するための資格認定講習会である。

*ライフセーバーの認定についてはウォーターセーフティ及びBLS(CPR+AED)の両コースを取得し、さらに上位の知識、技能を得るための講習の受講が必要であり、不特定多数の者の利益の増進に寄与する事業とは言えず、またライフセーバーの人員確保という相互扶助の面から、その他の事業(相互扶助等事業)として実施する。

以下の資格認定講習会を開催し資格の認定を行う。また、資格取得者に対して更新講習を実施する。

1 BLS^{※1}(CPR^{※2}+AED) コース

※1 Basic Life Support(一次救命処置)心肺蘇生とAED、気道異物の除去の3つを合わせてBLSという。

※2 cardiopulmonary resuscitation(心肺蘇生法)質の高い心肺蘇生とAED等の修得を目指し人命救助及び傷病者の社会復帰を目的に実施。

2 ウォーターセーフティ(WS^{※1}) コース

※1 水辺において自身を守ることでできる知識や技能のこと。水辺における活動やアクアスポーツ等の中で自らの安全を確保し、ライフセービングの基礎となる事故防止に備えることを目的に実施。

3 資格更新講習

[認定基準]

- ①公益財団法人日本ライフセービング協会認定の資格を有すること。
- ②水辺の事故防止及び救命等を目的に行われる資格講習会等を通じて、公益財団法人日本ライフセービング協会が同等認定として認める専門的知識及び技術を満たす資格を有すること。

■ライフセービングサポーター講習会の開催

子どもの保護者や民間スポーツクラブのインストラクター、学校教員等に向けた安全教室として、企業研修や学校の授業として広く一般の要望に合わせた各種安全教育プログラム「ライフセービングサポーター講習会」を実施した。プールでのウォーターセーフティやAED、応急処置などの体験ができる。

■資格認定講習会及びライフセービングサポーター講習会等の普及・促進に係る支援事業

地方開催での資格認定講習会（指導員養成、更新講習会含む）での指導員の実施に関わる旅費を支援した。また、ライフセービングサポーター講習会での実施諸経費を一部補助した。▽日本財団助成事業

BLS 73 回開催 /3,633 人
Water Safety 55 回開催 /5,606 人
ライフセービング 3 回開催 / 141 人
その他 (BLS & WS) 10 回開催 /1,250 人

▽株式会社 SUBARU 協賛事業
4/13 日本ライフセービング協会 東京スバル株式会社 本郷店
10/6 日本ライフセービング協会 株式会社SUBARU 群馬製作所
7/21 岩手県ライフセービング協会 岩手スバル自動車株式会社 花巻空港店
10/13 山形県ライフセービング協会 遊佐西浜海水浴場
12/14 福島県ライフセービング協会 福島スバル自動車株式会社
4/7 神奈川県ライフセービング協会 神奈川スバル株式会社 本社

4/25 神奈川県ライフセービング協会 神奈川スバル株式会社 湘南店
9/14 神奈川県ライフセービング協会 神奈川スバル株式会社 愛川U-carセンター
11/25 神奈川県ライフセービング協会 神奈川スバル株式会社 本社
12/5 神奈川県ライフセービング協会 神奈川スバル株式会社 本社
3/13 神奈川県ライフセービング協会 神奈川スバル株式会社 本社
7/6 静岡県ライフセービング協会 株式会社静岡スバル 浜松有玉店
7/7 静岡県ライフセービング協会 株式会社静岡スバル 浜松入野店
7/9 静岡県ライフセービング協会 浜松市中央区舞阪町 弁天島海浜公園
7/19 静岡県ライフセービング協会 湖西市新居弁天海水浴場 監視タワー内
10/21 愛知県ライフセービング協会 名古屋スバル自動車株式会社 本社
11/2 愛知県ライフセービング協会 名古屋スバル自動車株式会社 半田店
11/9 愛知県ライフセービング協会 岐阜スバル自動車株式会社 各務原店
11/10 愛知県ライフセービング協会 三重スバル自動車株式会社 四日市店

10/15 京都府ライフセービング協会 京都府民総合交流プラザ 京都テルサ
10/13 島根県ライフセービング協会 山陰スバル株式会社 松江支店
8/18 岡山県ライフセービング協会 岡山スバル自動車株式会社 久米店
7/27 広島県ライフセービング協会 広島スバル株式会社 福山店
7/4 福岡県ライフセービング協会 福岡スバル株式会社 本社
2/17 福岡県ライフセービング協会 福岡スバル株式会社 本社
2/20 福岡県ライフセービング協会 福岡スバル株式会社 本社
10/15 大分県ライフセービング協会 ビーコンプラザ (大分県別府市)
6/3 宮崎県ライフセービング協会 鹿児島県ライフセービング協会 南九州スバル株式会社 都城店
11/30 沖縄県ライフセービング協会 沖縄スバル株式会社



認定ライフセーバー養成のための資格認定事業

■事業実施の背景

人命救助、水辺の事故の減少・防止のためにはライフセービングの普及と同じく実際に人命救助を行うライフセーバーの存在が不可欠であるが、日本国内ではその数がまだまだ不足している。このような現状では、水辺の事故を防止することも、人命を救助することも困難となる。そこで、当事業では主に海岸、プール等で活動する認定ライフセーバーを養成する講習を開催し、正しい知識と技術をもったライフセーバーとしてのその資格を認定する。認定された者は「認定ライフセーバー」等の名称を使用し、活動することができる。

■事業の目的

全国の水辺の事故防止、事故の減少、人命救助、水辺の安全利用の促進を図るため、認定ライフセーバー等の養成を行う。

■事業の内容

以下のコース別の資格認定講習会、研修会は「JLAアカデミー」と称する教育機関が実施する。JLAアカデミーは、本協会が有する水辺の事故防止や人命救助に関する専門的・総合的な技術や技能、知識等を身に付けるための機会を広く社会に提供することを目的としている。また、その目的を達成するため体系的な資格認定プログラムを有している。

1. 認定ライフセーバー資格認定

資格認定は大きく以下のコースに分類されている。

- (1) サーフライフセービングコース
- (2) プールライフガーディングコース
- (3) IRB コース

※ Inflatable Rescue Boat … 救助用ボートの意

- (4) ジュニアエデュケーションコース
- (5) PWRC コース

※ Personal Water Rescue Craft … 救助用水上バイクの意

さらに最上位資格として下記の資格がある。

- (6) アシスタントインストラクター・インストラクター (指導員)

すべての事業に共通して、

- ① ウォーターセーフティ及びBLS (CPR+AED) コースの受講が完了し、両者の資格を保有していなければその上位資格である上記各コースの資格を取得することはできない。以下、ウォーターセーフティ及びBLSの資格を「基礎資格」とする。
- ② 15 歳以上でなければ資格を取得できない。

(1) サーフライフセービングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、ベーシックサーフライフセーバー及びアドバンスサーフライフセーバー資格である。

(2) プールライフガーディングコース

基礎資格を有した上で、取得できる資格は、プールライフガード及びアドバンスプールライフガード資格である。

(3) IRB コース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバーの資格を有した上で、取得できる資格は、IRBクルー及びIRBドライ

バー資格である。

(4) ジュニアエデュケーションコース

基礎資格及びベーシックサーフライフセーバー又はプールライフガードの資格を有した上で、取得できる資格は、リーダー資格である。

(5) PWRC コース

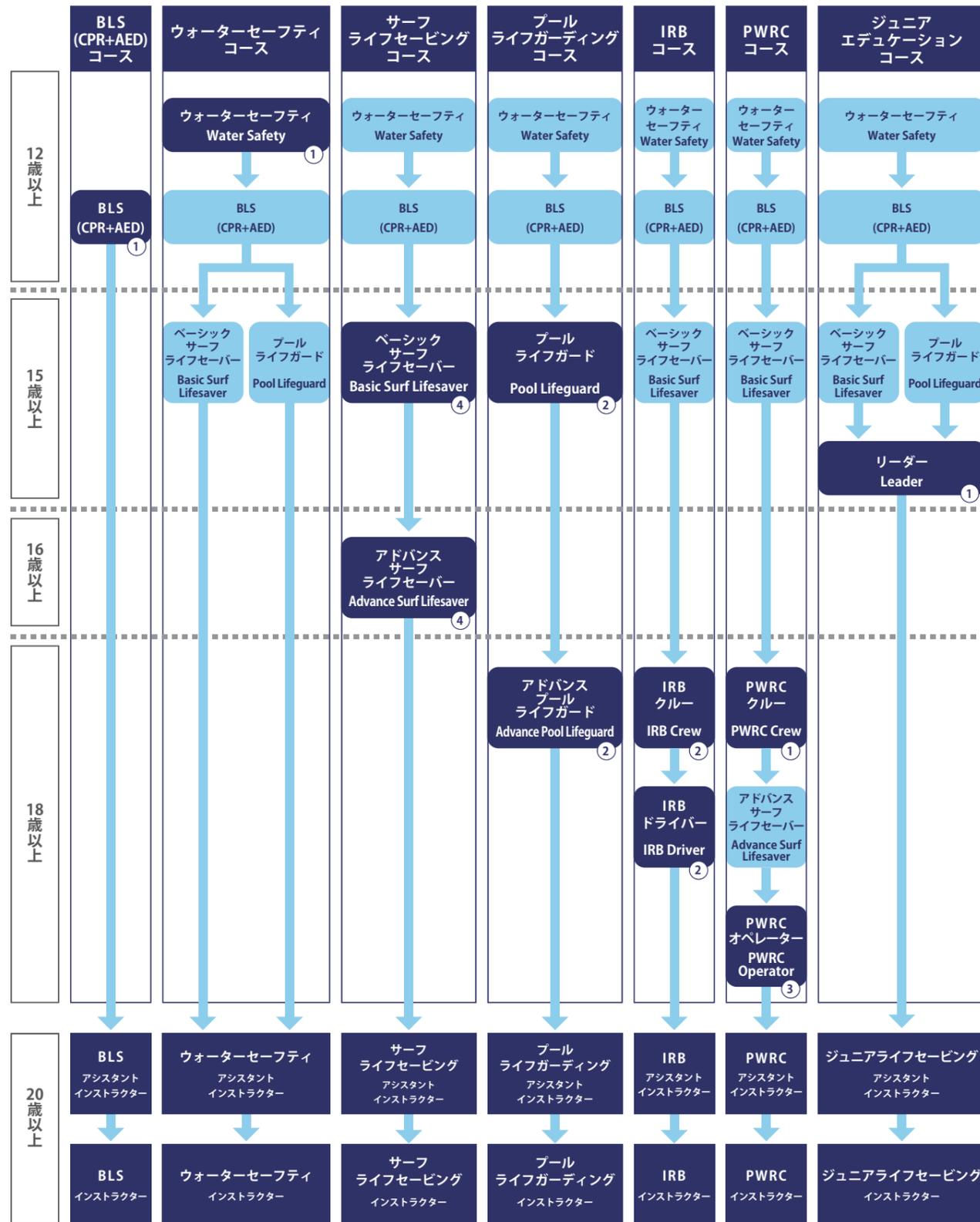
基礎資格及びベーシックサーフライフセーバーもしくはアドバンスサーフライフセーバー資格を有した上で、取得できる資格はPWRCクルー資格及びPWRCオペレーター資格である。

(6) アシスタントインストラクター及びインストラクター資格(指導員資格について)

最上位資格として以下の各指導員資格を取得できる。

- ・BLS アシスタントインストラクター
- ・BLS インストラクター
- ・ウォーターセーフティアシスタントインストラクター
- ・ウォーターセーフティインストラクター
- ・サーフライフセービングアシスタントインストラクター
- ・サーフライフセービングインストラクター
- ・プールライフガーディングアシスタントインストラクター
- ・プールライフガーディングインストラクター
- ・IRBアシスタントインストラクター
- ・IRBインストラクター
- ・ジュニアライフセービングアシスタントインストラクター
- ・ジュニアライフセービングインストラクター
- ・PWRC アシスタントインストラクター
- ・PWRC インストラクター

これらの資格は共通して各コースの下位資格を取得した上で実務経験等の条件を満たした者が取得できるものである。



• BLS=Basic Life Supportの略で一次救命処置を意味します。
 • IRB=Inflatable Rescue Boatの略
 • PWRC=Personal Water Rescue Craftの略

• BLSとウォーターセーフティの資格はどちらからでも受講できます。
 • 右下の○の中の数字は講習会受講日数です。

2025年3月31日現在

指導員資格認定講習会

BLS 指導員養成講習会

日程	会場	合格者
11月23、24、12月7、8日	東京医薬看護専門学校(東京都江戸川区)	5
1月10、11、12、13日	北谷町メディアステーション(沖縄県中頭郡)	5
1月18、19、25、26日	清水マリビル(静岡県静岡市)	11
1月25、26、2月1、2日	そびあしんぐう(福岡県糟屋郡)	4
2月8、9、22、23日	大阪ハイテクノロジー専門学校(大阪府大阪市)	4
合計		29

ウォーターセーフティ指導員養成講習会

日程	会場	合格者
4月27、28日	流通経済大学(茨城県龍ケ崎市)	4
12月14、15日	都立駒場高等学校(東京都目黒区)	6
1月25、26日	タピックタラソセンター宜野座(沖縄県国頭郡)	7
2月10、11日	静岡県富士水泳場(静岡県富士市)	10
3月15、16日	SAGA アクア(佐賀県佐賀市)	2
3月29、30日	スポーツクラブビッグラン(広島県福山市)	3
合計		32

サーフライフセービング指導員養成講習会

日程	会場	合格者
5月12、18、19日	三浦海岸(神奈川県三浦市)	11
11月10、16、17日	三浦市大浦海岸(神奈川県三浦市)	4
2月8、9、10日	北谷公園サンセットビーチ(沖縄県中頭郡)	7
合計		22

IRB 指導員養成講習会

日程	会場	合格者
3月29、30日	大竹海岸(茨城県鉾田市)	5
合計		5

ジュニアライフセービング指導員養成講習会

日程	会場	合格者
3月22、23日	ビジョンセンター浜松町(東京都港区)	3
合計		3

認定審判員資格認定及び審判員研修会の開催

認定審判員は、日本ライフセービング協会が主催または認定する競技会において審判を行う技能を有する者を養成する講習会である。審判員の認定については、認定審判員規程に従いこれを認定する。その他、上級審判としてS、A、B級審判員を定めている。

認定審判員資格認定講習会

C級認定審判員養成講習会

日程	会場	合格者
4月27日	オンライン	4
4月28日	オンライン	8
5月5日	オンライン	2
6月15日	オンライン	7
6月16日	オンライン	6
6月22日	ももちパレス	17
7月6日	オンライン	19
7月7日	オンライン	9
8月3日	オンライン	10
8月4日	オンライン	13
9月21日	砂風呂の宿 友善	13
11月16日	オンライン	18
11月17日	オンライン	11
12月21日	オンライン	17
12月22日	オンライン	27
12月2日	KAKERU UMI CLUB HOUSE	3
1月11日	オンライン	11
1月12日	オンライン	5
1月18日	KAKERU UMI CLUB HOUSE	1
2月1日	オンライン	2
2月2日	オンライン	14
2月2日	東海大学静岡キャンパス	12
	合計	229

審判員研修会

日程	会場	参加数
12月11日	オンライン	55
12月13日	オンライン	30
	合計	85



JLA ACADEMY 本部
本部長 佐藤 洋二郎

2024年度のアカデミー事業を一言で総括すると、ライフセービングサポーター講習会(以下サポーター講習会)も含め、各種資格認定数、講習会開催数ともに大変好調な結果となりました。認定数については、NPO 法人時代(2001～2018年)も含めて過去最高となった資格も出てきました。

サポーター講習会は、ウォーターセーフティ(WS)や一次救命処置(BLS)の内容を実施することが多いのですが、それぞれ開催数は114回と98回、参加者数は12,239人と5,954人となりました。スタートから11年間で1,540回、132,046人の方に受講をいただき、国内在住者に対し公益性のあるプログラムを提供する基盤が整ってきました。

資格認定講習会は、682回の開催、延べ5463人に資格認定を行いました。公益財団法人の認証を受けた2019年以降、開催数、認定数ともに最高値を記録しました。数字が全てではありませんが、資格を取得した仲間が増えたということは、水辺利用者の笑顔を守っていくマンパワーに繋がります。特に、ベーシック・サーフライフセーバー資格778人とアドバンス・サーフライフセーバー資格178人の認定数は、NPO 法人時代も含め過去最高の結果となりました。各地でライフセーバーの育成に力を注いくださった関係者の皆様のおかげです。2025年度もこの成果をつなげていきたいと考えています。

一方で、毎年のように水辺で生命が奪われていく現状は変わっていません。我々は、認定数の増加に一喜一憂してはいけないのです。そこで、各資格の認定数から見えてくる課題に目を向け、今後の対策を考えてみたいと思います。

①資格更新率の低さ

2024年度の認定ライフセーバーの更新率は38%(2023年度は51%)でした。更新率向上のために2020年から完全オンラインによる更新講習会をスタートし、さらに2024年度は更新対象者にメールだけではなくハガキによる案内も行いました。今回成果は出ませんでした。2025年度も継続していきます。同時に、資格を更新できる機会や選択肢を増やす必要があるのかもしれない。認定ライフセーバーの質を保持しつつ、更新率を高める対策を強化していきます。

②復活講習会受講者数の減少

2021年度に103名とピークを迎えましたが、以降99名、73名、66名と右肩下がりに減少しています。新型コロナウイルスの影響により新規受講者が大幅減少した時期にピークを迎えましたが、コロナ禍から落ち着きを取り戻した現在、復活講習会を受講する機運が下がっているようです。しかしながら、資格失効者は現場経験が豊富なベテランライフセーバーが多く、復帰すると大きな戦力となるのは間違いありません。現在の状況は、質の高い監視救助活動を継続する上で、大きな損失と言えます。資格失効者と顔の見える関係を築いている加盟クラブや都道府県協会との連携強化、また復活講習会の分かりやすい『見せ方』を工夫する必要があります。

最後に、講習会の運営や指導に関わってくださった都道府県ライフセービング協会、第1種加盟クラブ、そしてJLA指導員の皆様に対し、この場をお借りして深く感謝申し上げます。2025年度もよろしくお願ひいたします。

安全・防災教育・環境保全事業

安全・防災教育の普及・啓発に向けた教育支援活動

■臨海教育へのライフセービング指導協力

臨海教育等を通じて安全・防災教育を行った。

▽主催：北区教育委員会岩井臨海学園

日程：7月20日～8月12日
会場：岩井海岸（千葉県南房総市）
人数：1,334名

▽主催：国土館大学

日程：7月8日～7月9日
会場：岩井海岸（千葉県南房総市）
人数：168名

▽主催：愛知淑徳大学・健康医療科学部
スポーツ健康医科学科救急救命学専攻

日程：8月26日～8月30日、
9月2日
会場：長久手キャンパス屋内温水プール
人数：28名

■小中学校等へのライフセービング指導協力

各小中学校からの協力要請に応じた安全・防災教育及び海洋教育推進に向けたICT教育プログラムの開発と実践を行った。学校によってICT教育プログラムを活用した室内での学習プログラムのケース、プールでの実技プログラムのケースと状況に合わせて実施した。

■海洋教育支援推進に向けたICT教育用プログラム開発

<日本財団助成事業>

<開発目的>

海洋教育を広く推進していくために、水辺の安全教育は必須と考える。水泳を

含めた水辺教育のファンデーションプログラムとなる「安全に関する知識と技能習得」のためのICT教育の開発を目的とした。小学校、中学校学習指導要領改訂に伴う「水泳」における「安全確保につながる運動」「水泳の事故防止に関する心得」等を反映したウォーターセーフティプログラムの構築を行った。

<実施内容>

「e-Lifesaving」コンテンツ改修と拡充
「みんなで考えよう～釣り中の事故多発」追加制作

■学校教員への研修協力

教員を対象とした一次救命処置や水辺の事故防止等について研修会を行った

▽主催：足立区教育委員会

水泳事故防止研修会
日程：5月31日
会場：千住温水プール
（東京都足立区）
人数：70名

▽主催：栗東市社会福祉協議会講義

日程：7月11日
会場：なごやかセンター
（滋賀県栗東市）
人数：70名

▽主催：大智学園高等学校

日程：5月22日
会場：大智学園高等学校
（東京都新宿区）
人数：30名

安全・防災教育の普及・啓発に向けた調査研究

■防災力強化事業

防災教育の推進及び公的救助機関（海上保安庁、気象庁、警察、消防）との連携について検証/調査、地震発生後の津波に対する備えや対策について調査研究した。

連携機関：気象庁

▽内容

2020年12月24日に気象庁と日本ライフセービング協会が「水難事故防止・防災に関する協定」を締結したことにより共催事業を開始した

▽成果

津波フラッグを活用した避難訓練を下記のとおり実施

◎7月13日

横浜市主催 参加者：約100名
横浜海の公園にて津波避難訓練実施
地域のライフセービングクラブと共に津波フラッグを活用し、指定された高台避難所まで参加者を誘導

◎7月19日～8月13日

東京都北区岩井臨海学園
参加者：中学1年生、1334名
臨海学園のプログラム中に津波フラッグを掲げ避難訓練を実施

◎11月16日

藤沢市主催、参加者3,394名
辻堂海岸から片瀬西浜まで広範囲で津波避難訓練実施
JLAはドローン積載スピーカーを活用し避難誘導

小中学校等へのライフセービング指導協力

主催事業内容（イベント名）	日程	会場	参加数
中央区佃島小学校 プール実技プログラム	7月2日	佃島小学校プール（東京都中央区）	386名
深谷市立川本北小学校 プール実技プログラム	7月17日	川本北小学校プール（埼玉県深谷市）	60名
福生市立福生第五小学校 プール実技プログラム	7月18日	福生第五小学校プール（東京都福生市）	102名
横浜国立大学教育学部付属横浜中学校 プール実技プログラム	6月25日	横浜中学校プール（神奈川県横浜市）	245名
中央区坂本小学校 プール実技プログラム	6月20日	坂本小学校プール（東京都中央区）	15名
狛江市教育委員会 プール実技プログラム	7月17日	狛江市立第六小学校プール（東京都狛江市）	95名
狛江市教育委員会 プール実技プログラム	7月16日	狛江市立第一小学校プール（東京都狛江市）	150名
狛江市教育委員会 プール実技プログラム	7月8日 7月9日	狛江市立緑野小学校プール（東京都狛江市）	380名
カヌースラロームセンター プール実技プログラム	7月21日	カヌースラロームセンター（東京都江戸川区）	180名
諫早中学校 プール実技プログラム	7月8日	諫早中学校プール（長崎県諫早市）	290名
西大村小学校 プール実技プログラム	7月9日	西大村小学校プール（長崎県大村市）	245名
島中学校 プール実技プログラム	7月12日	岐阜市立島中学校（岐阜県岐阜市）	610名

<気象庁ホームページ>

●津波フラッグ解説ページ

http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html

●気象庁/知識・解説YouTubeチャンネル「津波フラッグ」をおぼえよう!!

<https://www.youtube.com/watch?v=fMMEvxFpM>

●マンガ小冊子「津波フラッグ」をおぼえよう!!」を継続配布

<津波フラッグ>

2020年の気象庁委員会にて津波フラッグが設定された。2021年、2022年とコロナの影響を受けたが各地の海水浴場では津波フラッグが配備されている。全国的に統一されていなかった津波避難時の旗が統一されたことでリスク管理が進んだ。なお、フラッグ決定には様々な意見があったが、聴覚障がい者の意見や視覚障がいにも配慮して、赤と白の格子模様である「U旗」が採択された。

安全・防災教育の普及・啓発に向けた教室・研修会の開催

■ジュニア・ライフセービング教室の開催 ＜日本財団助成事業＞

全国の子どもを対象にジュニア・ライフセービング教室を開催し、「自分の命は自分で守る」等の安全・防災教育を実施した。

実施団体	参加数
愛媛 LSC	13名
屋久島 LSC	32名
滑川 LSC	21名
八重津浜 LSC	32名
鴨川 LSC	48名
京都府 LSC	22名
小樽 LSC	31名
大分市 LSC	42名
葉山 LSC	48名
牧之原 LSC	50名

■ジュニア・ライフセービング教室の 開催に関する資器材等の配備支援

＜日本財団助成事業＞

- ・対象：都道府県協会及び加盟クラブ
- ・内容：ニッパード、ジュニア教本、ジュニアキャップ等

関連資器材	数量
ライフジャケット	150
ジュニア用ラッシュガード	150
ジュニア用キャップ	150
ニッパード	20
ジュニア教室用ポップアップバー	10
ジュニアテキスト	4,000
水辺の安全啓発クリアファイル	20,000
ジュニア用ウェットスーツ	150
ビーチかるた	10

■青少年に対する研修会

ライフセービングを担う人材を育成するために大学生を対象とした研修会を実施した。

日程	2月1～2日
会場	オリンピックセンター (東京都渋谷区)
内容	学生リーダーズキャンプ
参加数	27大学 44名

■ライフセーバーに対する研修会

「水辺の事故ゼロ」を目指し、より質の高い監視救助活動を行うことを目的に、溺水事故防止に関する事項、溺水事故の事例検証について情報共有する研修会やライフセーバー自身のスキルアップを目的とした研修会等を実施した。

■シミュレーション審査会

日程	会場 参加者数
10月27日	保田海岸(千葉県鋸南町) 6チーム/36名 スタッフ・見学/77名
11月3日	海の公園(神奈川県横浜市) 7チーム/42名 スタッフ・見学/127名
11月17日	重富海岸(鹿児島県始良市) 6チーム/36名 スタッフ・見学/52名
11月24日	相良サンビーチ(静岡県牧之原市) 10チーム/60名 スタッフ・見学/85名
11月30日	須磨海水浴場(兵庫県神戸市) 4チーム/24名 スタッフ・見学/55名

■スキルアップ研修会

日程	内容 会場/参加数
10月12日	レスキューミーティング 神奈川県藤沢市/118名
11月16日	サーフトレーニングクリニック 鹿児島県始良市/25名
3月2日	事例検討会 東京都港区/57名

■インフレーターレスキューボート (IRB[®])に関する消防向け教育カリ キュラムの開発とIRB レスキュー技術 に関する研修会等の開催

※ Inflatable Rescue Boat

・・・救助用ボートの意
浮遊物が多い洪水や津波・高潮などの水災害において、より多くの要救助者を運搬する機材として優先である IRB に関し、全国の消防を対象にした教育カリキュラムの開発と IRB レスキュー技術に関する研修会等を開催し、ライフセーバーと全国消防が連携することで、より多くの救助が可能な体制の構築を図った。

■ IRB を用いた救助技術講習会

＜日本財団助成事業＞

日程	参加地域消防 参加数
6月4日	岐阜県高山市消防本部 9名
10月3日	宮崎県延岡市消防本部 8名
10月15日 ～16日	千葉県匝瑳市横光町消防組合 18名
10月23日	岡山県瀬戸内市消防本部 10名
10月29日	岡山県真庭市消防本部 9名
11月7日	鹿児島県南大隅町役場・消防団 14名
12月11日 ～12日	千葉県夷隅郡市広域市町村 圏事務組合消防本部 11名
1月21日	神奈川県横須賀市消防局 5名
2月19日 ～20日	茨城県常陸大宮市消防本部 12名

■「令和の日本型学校体育構築支援事業」 ＜スポーツ庁委託事業＞

学校教育における水難事故防止対策の強化を目指し、全国の監視救助活動の現場から得た救助救命の実績と多くの児童生徒に対して実践してきたウォーターセーフティプログラムをもとに、自己保全のための学習内容や指導方法の工夫、さらには有効な教育連携についての実践研究を実施した。

[テーマ]

水難事故防止教育の指導連携と授業内容の充実を目指して～水泳学習の外部委託への流れを踏まえ～

[目的]

事前学習として e-lifesaving を活用し「水泳運動の心得」を習得し、水難事故防止の実技としてライフジャケットの活用を展開する。より実践的な安全の知識と対処行動を体験することで、水難事故の未然防止の心構えや具体的な“そなえ”などの行動変容に働きかけることをねらいとする。



日程	学校	対象 参加者
7月8日	狛江市立緑野小学校	小学3年生 101
7月9日	狛江市立緑野小学校	小学4,5,6年生 291
7月16日	狛江市立狛江第一小学校プール	小学5年生 150
7月17日	狛江市立狛江第六小学校	小学5年生 96

■誰でも海を楽しめる環境の創出

「誰もが海で遊べるための海辺のノーマライゼーションに関する手引き」(2024年3月完成)をホームページで公開し、障がい者を対象とするサポートカリキュラムの実施をしている加盟ライフセービングクラブ(LSC)の継続実施を支援するとともに、実績のない加盟ライフセービングクラブが実施する際の手引きとした。また、ライフセービングクラブの希望に応じて、器材(水陸両用車いす、ニッパード、ライフジャケット)の貸出しを行った。

環境保全活動

全国の水辺の清掃及び水辺を利用する一般市民に対して環境保全についての教育を実施した。

■ビーチクリーン活動

主な日程	会場 主な内容
7月1日 ～8月31日	各地の海水浴場等(約200か所) ビーチクリーン活動

ライフセービング教育本部総括



ライフセービング
教育本部
本部長 松本 貴行

2024年5月、日本財団が企画・統括する海のそなえプロジェクトの一環として、小中の教員 2,060 人に対し、水泳指導に関する意識調査を行いました。

調査結果によると、小学校の約9割ではクラス担任が水泳授業を実施しており、授業を実施する上で、一番不安に思うことの第1位は「安全に関すること」でした。次いで「授業時間」「授業内容」という結果でした。

この調査を行った矢先、大変悲しい事故が起きてしまいました。2024年7月5日、高知市立長浜小学校の4年生である松本風汰さんが水泳授業中に溺れ、帰らぬ人となってしまったのです。

以下にその事故検証委員会の報告書に記された文をここに引用します。

「当委員会は本件事故に至る経緯、本件事故状況、本件事故発生後の状況等について、検証を行ったが、当委員会がいかに事実を検証し、原因を分析した上で、再発防止策を提言したとしても、本件事故は既に発生しており、風汰さんの失われた命や希望にあふれた未来は永遠に戻ってくることはなく、残されたご遺族の悲しみが癒えることは決してない。その意味で、本件事故は、文字どおり、取り返しのつかない事故であり、本来、水に慣れ親しみ、水に溺れないための技能を習得すべき、水泳授業中に起こった事故である点で、決してあってはならない事故である。」

事故を未然に防ぐことができなかったことの無念、無力さを受け止め、事故検証委員会の任を謹んでお受けさせていただきました。

水泳指導における意識調査によれば、水泳授業に不安を抱えたまま実施している先生方が大勢います。さらには先生方の多くは、授業で水難事故防止に関する内容を取り扱った方が良いと思いつつも、教えるのは難しいと考えているようです。だからこそ「ライフセーバーのような水辺の安全教育団体と連携して教えることが望ましい」という結果もありました。

子ども達の楽しい水泳や水辺の活動を守り、悲しみを生まないためにも是非、地域の学校、教育委員会と連携し、積極的にWSの教員研修や授業の実施を検討して下さい。いや…具体的に動いて下さい。ご不安やご不明な点は教育本部が支援します(jla.edu.matsu@gmail.com)

学校は数十人から数百人という規模で、児童・生徒にBLSやWS(自助・共助)を直接伝えることのできる貴重な場です。「真の未然への挑戦」が学校にあると捉えて良いのではないのでしょうか。「水辺の事故ゼロの社会」は監視救助活動だけでは実現しません。ライフセーバーとしてさらに主体的なアクションの領域を広める1年にしていきたいと思います。

BLS … Basic Life Support (一次救命処置)

WS … Water Safety



e-Lifesaving

競技推進事業

ライフセービング競技会の開催

大会名	開催日	会場	参加数
第2回全日本IRB競技選手権	4月13日～14日	館山寺サンビーチ(静岡県)	7チーム 56名
第37回全日本種目別選手権	6月8日～9日	白浜大浜海岸(静岡県)	59チーム 602名
第4回全日本学生SERC選手権	6月22日	静岡県立水泳場(静岡県)	20チーム 108名
第4回全日本SERC選手権	6月23日	静岡県立水泳場(静岡県)	17チーム 102名
全日本ジュニア/マスターズ選手権	9月7日～8日	岩井海岸(千葉県)	24チーム 321名
第39回全日本学生選手権	9月28日～29日	御宿中央海岸(千葉県)	43チーム 755名
第16回全日本ユース選手権	10月5日～6日	御宿中央海岸(千葉県)	18チーム 207名
第50回全日本選手権	10月12日～14日	片瀬西浜海岸(神奈川県)	62チーム 663名
第24回オーシャンサーフチャレンジ in 白浜	10月26日～27日	白良浜海水浴場(和歌山県)	13チーム 109名
全日本ジュニア/ユース/マスターズ(プール)	1月25日～26日	静岡県富士水泳場(静岡県)	27チーム 374名
第16回全日本学生プール競技選手権	2月15日～16日	日環アリーナ栃木(栃木県)	43チーム 529名
第37回全日本プール競技選手権	3月8日～9日	東京アクアティクスセンター(東京都)	38チーム 457名

■事業実施の背景

ライフセービング競技の目的は人命救助の向上にある。実際の現場での救助の際には瞬時に必要とされる行動をとれる技術の錬磨と基礎体力が必要であり、それには日頃の救助技術等の練習・訓練・体力づくりがその基礎となる。技術の向上、持久力や基礎体力の向上には他者との競い合いが最も近道であり、

結果そこで仲間との連帯感の向上、技術の再確認等がなされる。そのことが人命救助へとつながる。競技種目はビーチ種目、スイム種目、ボード&サーフスキー種目、オーシャンマンレース等があり、その対象もジュニア(小学生)、ユース(中学生/高校生)、学生、社会人など幅広い。



選手強化等事業

<協賛：(株)三洋物産 / (株)三洋販売 > ライフセービング競技における競技者の競技力強化・育成事業を実施した。

■強化合宿・研修合宿等事業

日程	対象	会場	内容
4月6-7日	HPT-A, B, C	栃木温水プール館(栃木)、片瀬東浜海岸(神奈川県)、材木座海岸(神奈川県)	強化合宿
4月27日-5月6日	HPT-A, B, C	オーストラリア・ゴールドコースト	在豪日本人選手の強化
5月18-19日	HPT-A, B, C	日環アリーナ栃木(栃木県)	プール競技選考会
6月23日	LWC2024 日本代表	静岡県立水泳場(静岡県)	強化合宿
6月29-30日	LWC2024 日本代表	国際武道大学(千葉)、御宿海岸(千葉) 屋形海岸(千葉)	強化合宿
8月3-4日	LWC2024 日本代表	岩井海岸(千葉)、館山市営プール(千葉)	強化合宿
8月17-18日	LWC2024 日本代表	国際武道大学(千葉)、御宿海岸(千葉)	強化合宿
8月26-27日	LWC2024 日本代表(IRB)	屋形海岸(千葉)	強化合宿
10月26-27日	GERMAN CUP2024 日本代表	国際武道大学(千葉)	強化合宿
11月4日	GERMAN CUP2024 日本代表	AQiT(イトマン東京強化校)	強化合宿
11月9-10日	GERMAN CUP2024 日本代表	AQiT(イトマン東京強化校)	強化合宿
1月12日	TWG2025 日本代表	AQiT(イトマン東京強化校)	強化合宿
1月19日	TWG2025 日本代表	AQiT(イトマン東京強化校)	強化合宿
1月24-25日	TWG2025 日本代表	静岡県富士水泳場(静岡)	TWG2025 出場権獲得のためのタイムトライアル

■国際競技会等への代表選手選考及び派遣事業

日程	大会名	会場	内容
8月28日-9月4日	LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS 2024	オーストラリア / ゴールドコースト	オープン：6位 / 30か国 ユース：8位 / 30か国 IRB：4位 / 6か国
11月22-23日	2024 INTERNATIONAL GERMAN CUP	ドイツ / ヴァーレンドルフ	—

スポーツ教室等開催事業

小・中・高校生、学生及び一般を対象にライフセービングスポーツの楽しさと基礎的な技術の習得を通じて地域のライフセービングスポーツの普及・振興を図った。

日程	対象	会場	内容
6月15日	小学生、中学生	材木座海岸(神奈川県)	オーシャン競技の普及向上
6月16日	高校生以上	材木座海岸(神奈川県)	オーシャン競技の普及向上
6月22日	高校生以上	静岡県立水泳場(静岡県)	SERCの普及向上
9月17日	西新小学校5年生184名	シーサイドももち海浜公園(福岡)	学校交流プログラム
11月30日	朝日スポーツクラブ会員(小学生)	朝日スポーツクラブBIG-S 網島店(神奈川県)	プール競技の体験普及

ドーピング防止活動推進事業

国内外のドーピング防止活動の動向を踏まえ、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構に加盟・連携し、ドーピング防止教育・啓発活動を実施した。

日程	内容	参加対象	参加数
4月13日	アンチ・ドーピング講義	育成選手・保護者	17名
5月25-26日	アウトリーチプログラム	第26回神奈川県ライフセービング選手権大会 育成選手・サポートスタッフ・保護者	94名
5月21日	アンチ・ドーピング講座(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	16名
6月1日	アンチ・ドーピング講座(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	14名
6月29-30日	アンチ・ドーピング個人面談	LWC2024 日本代表(全体)	30名
7月1日	アンチ・ドーピング研修(オンライン)	LWC2024 日本代表(オープン・IRB)・サポートスタッフ	32名
7月10日	アンチ・ドーピング研修(オンライン)	LWC2024 日本代表(ユース)・サポートスタッフ	18名
8月14日	アンチ・ドーピング研修(オンライン)	LWC2024 日本代表(ユース)の保護者・サポートスタッフ	21名
8月31日	アンチ・ドーピング講座(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	2名
9月11日	アンチ・ドーピング講座(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	2名
9月16日	アンチ・ドーピング講座(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	1名
9月24日	アンチ・ドーピング講座(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	4名
10月12-14日	アウトリーチプログラム	第50回全日本ライフセービング選手権大会 競技会参加アスリート・サポートスタッフ・保護者	127名
10月27日	アンチ・ドーピング個人面談	GERMAN CUP2024 日本代表	10名
11月9日	アンチ・ドーピング研修	GERMAN CUP2024 日本代表・サポートスタッフ	12名
1月25-26日	アウトリーチプログラム	全日本JYM プール選手権大会2024 育成選手・サポートスタッフ・保護者	201名
2月1日	アンチ・ドーピング講座 ベーシックレベル(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	5名
2月7日	アンチ・ドーピング講座 ベーシックレベル(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	4名
2月19日	アンチ・ドーピング講座 アドバンスレベル(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	5名
3月1日	アンチ・ドーピング講座 アドバンスレベル(オンライン)	競技会参加アスリート・サポートスタッフ	2名
3月8-9日	ドーピング検査	第37回全日本プール競技選手権大会 全日本参加アスリート・サポートスタッフ	実施人数 非公開

ライフセービング日本代表

以下の国際大会に日本代表を派遣した。

■ LIFESAVING WORLD

CHAMPIONSHIPS 2024

[主催] 国際ライフセービング連盟
(International Life Saving Federation)

[日程] 2024年8月28日(水)～9月4日(水)

[場所] オーストラリア・ゴールドコースト

[オフィシャルゴールドパートナー]

株式会社三洋物産

株式会社三洋販売

[オフィシャルサポーター]

アルコインターナショナル株式会社

エンジンジャパン

株式会社クレーマージャパン

[IRB オフィシャルサポーター]

株式会社ハーレージャパン

リップカールジャパン株式会社

[JLA 役員]

入谷 拓哉 / 団長, JLA 理事長

高野 絵美 / JLA 副理事長, 広報室長

田村 憲章 / JLA 理事, ライフセービングスポーツ本部長

中川 容子 / ILS 理事, JLA 理事, 国際室長

オープン日本代表

監督

植木 将人 オープン監督

コーチ

池谷 雅美 HPT コーチ

坂本 陸 HPT コーチ

トレーナー

細川 英範 HPT トレーナー

神崎 智大 HPT トレーナー

栄養士

松本 恵 HPT 専門スタッフ

チームマネージャー

青木 将展 スポーツ育成委員会委員長

選手 (オープン) 12 名

・女子 6 名

名須川 紗綾* 茅ヶ崎 SLSC

石黒 七都 下田 LSC

小久保 琴音 湯河原 LSC / 東海大学湘南

田崎 沙楽 BMD Northcliffe SLSC

待井 ひなた 湯河原 LSC / 東海大学湘南

三井 結里花 館山 SLSC / 西浜 SLSC

・男子 6 名

上野 凌* 西浜 SLSC

相澤 虎大 下田 LSC

西山 俊 湯河原 LSC

繁田 龍之介 湯河原 LSC / Vikings

堀江 星冴 勝浦 LSC

森下 広大 鴨川 LSC

※キャプテン

ユース日本代表

監督

北矢 宗志 ユース監督

コーチ

具志堅 夕 HPT アシスタントコーチ

トレーナー

清水 伸子 HPT トレーナー

栄養士

梶田 光里 HPT 専門スタッフ

チームマネージャー

荒井 宏和 スポーツ育成委員会委員

選手 (オープン) 12 名

・女子 6 名

高梨 帆南* 勝浦 LSC

槍田 愛 西浜 SLSC

杉野 恵美乃 日本体育大学荏原高等学校

成海 幸波 館山 SLSC

富田 梨紗子 KITAJIMAQUATIC / 西浜 SLSC

富田 優佳子 西浜 SLSC

・男子 6 名

斎藤 優心* 日本体育大学荏原高等学校

大久保 良祐 日本体育大学荏原高等学校

小松 壮 館山 SLSC

高田 理世 西浜 SLSC

浜地 権依 西浜 SLSC

柳田 ジョーディー 湯河原 LSC / Burleigh Heads Mowbray Park SLSC

※キャプテン



LWC2024 オープン日本代表選手



LWC2024 ユース日本代表選手

IRB 日本代表

コーチ

鈴木 慎一 HPT コーチ

選手 (IRB) 8 名

・女子 4 名

間根山 花子* 西浜 SLSC

大川 莉奈 西浜 SLSC

富田 和佳子 西浜 SLSC

森 陽菜子 西浜 SLSC

・男子 4 名

溝上 晴斗* 下田 LSC / 西浜 SLSC

岸 瑛心 西浜 SLSC / 日本体育大学

高橋 颯 下田 LSC / 西浜 SLSC

立石 隆真 西浜 SLSC

※キャプテン



LWC2024 IRB 日本代表選手, 帯同スタッフ



LWC2024 日本代表選手団帯同スタッフ

■ 2024 INTERNATIONAL

GERMAN CUP

[主催] Deutsche Lebens-Rettungs-Gesellschaft e.V. (DLRG)

[日程] 2024年11月22日(金)～23日(土)

[場所] ドイツ・ヴァーレンドルフ

[オフィシャルゴールドパートナー]

株式会社三洋物産

株式会社三洋販売

[オフィシャルサポーター]

エンジンジャパン

株式会社クレーマージャパン

監督

植木 将人 オープン監督

トレーナー

細川 英範 HPT トレーナー

チームマネージャー

荒井 宏和 スポーツ育成委員会委員

選手 10 名

・女子 5 名

三井 結里花* 館山 SLSC / 西浜 SLSC

名須川 紗綾 茅ヶ崎 SLSC

待井 ひなた 湯河原 LSC / 東海大学湘南

山田 純葉 湯河原 LSC / 日本体育大学

山田 結 白浜 LSC / 日本体育大学

・男子 5 名

西山 俊* 湯河原 LSC

猪俣 大地 銚子 LSC / 東洋大学

関口 広太 大竹 SLSC / 早稲田大学

原 柁太 白浜 LSC / 日本体育大学

繁田 龍之介 湯河原 LSC / Vikings

※キャプテン



2024 INTERNATIONAL GERMAN CUP

LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS 2024 in Gold Coast, Australia 競技結果

■ SERC (シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技) オープン

選手名	順位
上野 凌、三井 結里花、西山 俊、森下 広大	1位

■ SERC (シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技) ユース

選手名	順位
富田 梨紗子、大久保 良祐、斎藤 優心、浜地 権依	7位

■ プール競技オープン (※は日本記録更新) 【A 決勝：1-8 位のレース B 決勝：9-16 位のレース】

	種目名	選手名	順位	タイム
男子個人	200m 障害物スイム	繁田 龍之介	B 決勝 4 位	2'00.39
		-	-	-
	50m マネキンキャリアー	西山 俊	B 決勝 1 位	29.77 ※
		繁田 龍之介	予選 23 位	31.33
	100m レスキューメドレー	西山 俊	予選 17 位	1'03.11
		繁田 龍之介	B 決勝 8 位	1'03.72
	100m マネキンキャリアー・ウィズフィン	西山 俊	予選 18 位	48.43
		-	-	-
	100m マネキントウ・ウィズフィン	西山 俊	予選 20 位	54.85
		上野 凌	予選 28 位	57.33
200m スーパーライフセーバー	上野 凌	予選 19 位	2'17.88	
	繁田 龍之介	B 決勝 5 位	2'13.49	
男子団体	12.5m ラインスロー	西山 俊、上野 凌	予選 17 位	19.43
	4 × 50m 障害物リレー	森下 広大、上野 凌、西山 俊、繁田 龍之介	B 決勝 2 位	1'42.99
	4 × 25m マネキンリレー	繁田 龍之介、相澤 虎大、上野 凌、西山 俊	A 決勝 6 位	1'10.48 ※
	4 × 50m メドレーリレー	森下 広大、繁田 龍之介、上野 凌、西山 俊	B 決勝 3 位	1'34.59



LWC2024 SERC (シミュレーテッド・エマージェンシー・レスポンス競技) 優勝 オープン日本代表



LWC2024 SERC オープン

LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS 2024 in Gold Coast, Australia 競技結果

■プール競技オープン (※は日本記録更新) 【A 決勝：1-8 位のレース B 決勝：9-16 位のレース】

	種目名	選手名	順位	タイム
女子個人	200m 障害物スイム	田崎 沙楽	B 決勝 5 位	2'17.32
		小久保 琴音	B 決勝 7 位	2'19.92
	50m マネキンキャリー	三井 結里花	予選 20 位	37.71
		待井 ひなた	B 決勝 3 位	35.03 ※
	100m レスキューメドレー	三井 結里花	予選 20 位	1'16.95
		待井 ひなた	B 決勝 7 位	1'15.04 (予選で 1'13.21 ※)
	100m マネキンキャリー・ウィズフィン	名須川 紗綾	予選 18 位	56.21
		待井 ひなた	B 決勝 6 位	56.07
100m マネキントウ・ウィズフィン	名須川 紗綾	B 決勝 2 位	1'00.04 (予選で 59.24 ※)	
	待井 ひなた	予選 20 位	1'04.58	
200m スーパーライフセーバー	三井 結里花	予選 17 位	2'36.00	
	小久保 琴音	予選 18 位	2'37.98	
女子団体	12.5m ラインスロー	名須川 紗綾、石黒 七都	A 決勝 6 位	32.39
	4 × 50m 障害物リレー	待井 ひなた、名須川 紗綾、小久保 琴音、田崎 沙楽	A 決勝 7 位	1'56.04
	4 × 25m マネキンリレー	名須川 紗綾、待井 ひなた、三井 結里花、田崎 沙楽	B 決勝 1 位	1'21.86 ※
	4 × 50m メドレーリレー	田崎 沙楽、名須川 紗綾、小久保 琴音、待井 ひなた	B 決勝 1 位	1'45.66
混合	4 × 50m Mix プールライフセーバーリレー	待井 ひなた、名須川 紗綾、繁田 龍之介、西山 俊	A 決勝 6 位	1'52.37 ※

■プール競技ユース (※は日本記録更新) 【A 決勝：1-8 位のレース B 決勝：9-16 位のレース】

	種目名	選手名	順位	タイム
男子個人	200m 障害物スイム	小松 壮	B 決勝 5 位	2'08.96
		大久保 良祐	予選 26 位	2'17.33
	50m マネキンキャリー	浜地 権依	予選 22 位	34.03
		大久保 良祐	予選 24 位	34.96
	100m レスキューメドレー	浜地 権依	予選 23 位	1'13.61
		大久保 良祐	予選 25 位	1'13.84
	100m マネキンキャリー・ウィズフィン	斎藤 優心	B 決勝 6 位	54.92
		高田 理世	B 決勝 7 位	56.84
100m マネキントウ・ウィズフィン	斎藤 優心	予選 23 位	1'03.53	
	小松 壮	DSQ		
200m スーパーライフセーバー	浜地 権依	予選 20 位	2'32.25	
	斎藤 優心	予選 26 位	2'46.17	
男子団体	12.5m ラインスロー	斎藤 優心、浜地 権依	B 決勝 2 位	14.86
	4 × 50m 障害物リレー	大久保 良祐、小松 壮、浜地 権依、高田 理世	A 決勝 7 位	1'48.56
	4 × 25m マネキンリレー	大久保 良祐、高田 理世、浜地 権依、斎藤 優心	A 決勝 8 位	1'20.86
	4 × 50m メドレーリレー	小松 壮、斎藤 優心、大久保 良祐、高田 理世	A 決勝 8 位	1'40.27

LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS 2024 in Gold Coast, Australia 競技結果

■プール競技ユース (※は日本記録更新) 【A 決勝：1-8 位のレース B 決勝：9-16 位のレース】

	種目名	選手名	順位	タイム
女子個人	200m 障害物スイム	成海 幸波	予選 24 位	2'31.04
		-	-	
	50m マネキンキャリー	杉野 恵美乃	予選 21 位	40.88
		檜田 愛	予選 22 位	40.96
	100m レスキューメドレー	成海 幸波	予選 21 位	1'26.80
		-	-	
	100m マネキンキャリー・ウィズフィン	杉野 恵美乃	B 決勝 6 位	1'04.65
		富田 梨紗子	B 決勝 4 位	1'03.72
100m マネキントウ・ウィズフィン	檜田 愛	予選 21 位	1'10.90	
	富田 梨紗子	B 決勝 5 位	1'07.79	
200m スーパーライフセーバー	成海 幸波	予選 24 位	2'58.20	
	富田 梨紗子	予選 22 位	2'58.03	
女子団体	12.5m ラインスロー	高梨 帆南、富田 優佳子	A 決勝 6 位	33.66
	4 × 50m 障害物リレー	成海 幸波、檜田 愛、富田 梨紗子、富田 優佳子	B 決勝 5 位	2'09.13
	4 × 25m マネキンリレー	富田 梨紗子、杉野 恵美乃、檜田 愛、成海 幸波	B 決勝 1 位	1'33.36
	4 × 50m メドレーリレー	成海 幸波、富田 梨紗子、杉野 恵美乃、高梨 帆南	B 決勝 5 位	1'57.42
混合	4 × 50m Mix プールライフセーバーリレー	成海 幸波、富田 梨紗子、小松 壮、斎藤 優心	DSQ	



LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS 2024 in Gold Coast, Australia 競技結果

■オーシャン競技オープン

	種目名	選手名	順位
男子個人	サーフレース	上野 凌	18位
		繁田 龍之介	11位
	サーフスキーレース	西山 俊	17位
		-	-
	ボードレース	相澤 虎大	9位
		上野 凌	15位
	オーシャンマン	相澤 虎大	Did Not Finish
		-	-
	ビーチフラッグス	堀江 星冴	1位
		森下 広大	4位
ビーチスプリント	森下 広大	6位	
	堀江 星冴	37位	
男子団体	レスキューチューブレスキュー	繁田 龍之介、西山 俊、上野 凌、森下 広大	6位
	ボードレスキュー	上野 凌、相澤 虎大	8位
	オーシャンマンリレー	繁田 龍之介、相澤 虎大、西山 俊、森下 広大	7位
	ビーチリレー	西山 俊、堀江 星冴、相澤 虎大、森下 広大	11位
女子個人	サーフレース	田崎 沙楽	5位
		三井 結里花	13位
	サーフスキーレース	名須川 紗綾	6位
		三井 結里花	15位
	ボードレース	田崎 沙楽	9位
		名須川 紗綾	12位
	オーシャンウーマン	田崎 沙楽	4位
		三井 結里花	14位
	ビーチフラッグス	石黒 七都	3位
		-	-
ビーチスプリント	石黒 七都	11位	
	-	-	
女子団体	レスキューチューブレスキュー	小久保 琴音、待井 ひなた、名須川 紗綾、石黒 七都	7位
	ボードレスキュー	三井 結里花、名須川 紗綾	4位
	オーシャンウーマンリレー	田崎 沙楽、三井 結里花、名須川 紗綾、石黒 七都	6位
	ビーチリレー	石黒 七都、小久保 琴音、名須川 紗綾、待井 ひなた	14位
混合	Mix オーシャンライフセーバーリレー	石黒 七都、田崎 沙楽、相澤 虎大、西山 俊	6位

LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS 2024 in Gold Coast, Australia 競技結果

■オーシャン競技 ユース

	種目名	選手名	順位
男子個人	サーフレース	小松 壮	20位
		柳田 ジョーディー	16位
	サーフスキーレース	浜地 権依	25位
		柳田 ジョーディー	17位
	ボードレース	浜地 権依	17位
		高田 理世	16位
	オーシャンマン	浜地 権依	17位
		柳田 ジョーディー	11位
	ビーチフラッグス	高田 理世	28位
		斎藤 優心	2位
ビーチスプリント	斎藤 優心	22位	
	高田 理世	18位	
男子団体	レスキューチューブレスキュー	小松 壮、柳田 ジョーディー、高田 理世、斎藤 優心	6位
	ボードレスキュー	浜地 権依、高田 理世	4位
	オーシャンマンリレー	柳田 ジョーディー、高田 理世、浜地 権依、斎藤 優心	6位
	ビーチリレー	斎藤 優心、高田 理世、小松 壮、浜地 権依	8位
女子個人	サーフレース	成海 幸波	13位
		富田 梨紗子	19位 (DNF)
	サーフスキーレース	檜田 愛	17位
		富田 梨紗子	25位
	ボードレース	檜田 愛	13位
		富田 梨紗子	21位
	オーシャンウーマン	檜田 愛	16位
		富田 優佳子	Did Not Finish
	ビーチフラッグス	高梨 帆南	5位
		杉野 恵美乃	9位
ビーチスプリント	高梨 帆南	12位	
	杉野 恵美乃	14位	
女子団体	レスキューチューブレスキュー	成海 幸波、富田 梨紗子、高梨 帆南、杉野 恵美乃	5位
	ボードレスキュー	檜田 愛、高梨 帆南	9位
	オーシャンウーマンリレー	成海 幸波、檜田 愛、高梨 帆南、杉野 恵美乃	9位
	ビーチリレー	高梨 帆南、杉野 恵美乃、富田 優佳子、檜田 愛	9位
混合	Mix オーシャンライフセーバーリレー	高梨 帆南、成海 幸波、高田 理世、浜地 権依	8位

LIFESAVING WORLD CHAMPIONSHIPS 2024 in Gold Coast, Australia 競技結果

■総合成績 オープン

順位	国名	ポイント
1	Australia	907
2	New Zealand	873
3	France	629
4	Italy	519
5	Germany	504
6	Japan	373
7	Great Britain	361
8	Spain	357
9	South Africa	307
10	USA	304

■総合成績 ユース

順位	国名	ポイント
1	Australia	973
2	New Zealand	774
3	France	759
4	Spain	607
5	South Africa	535
6	Great Britain	521
7	Ireland	320
8	Japan	248
9	Denmark	221
10	Italy	200

■ IRB 競技

	種目名	選手名	順位
男子団体	IRB レスキュー	D: 高橋 颯、C: 岸 瑛心、P: 立石 隆真	3位
	IRB マスレスキュー	D: 高橋 颯、C: 岸 瑛心、P1: 溝上 晴斗、P2: 立石 隆真	4位
	IRB レスキューチューブ	D: 高橋 颯、C: 岸 瑛心、P: 立石 隆真	3位
女子団体	IRB レスキュー	D: 森 陽菜子、C: 間根山 花子、P: 富田 和佳子	5位
	IRB マスレスキュー	D: 森 陽菜子、C: 間根山 花子、P1: 大川 莉奈、P2: 富田 和佳子	DSQ
	IRB レスキューチューブ	D: 間根山 花子、C: 富田 和佳子、P: 森 陽菜子	4位
混合	Mix IRB チームレスキュー	D1: 森 陽菜子、C1: 間根山 花子、P1: 富田 和佳子、 D2: 高橋 颯、C2: 岸 瑛心、P2: 立石 隆真	DSQ

※ D: ドライバー役 C: クルーパーソン役 P: ペイシエント役
D1: 第1ドライバー役 D2: 第2ドライバー役 C1: 第1クルーパーソン役 C2: 第2クルーパーソン役 P1: 第1ペイシエント役 P2: 第2ペイシエント役

■総合成績 IRB 競技

順位	国名	ポイント
1	New Zealand	136
2	Australia	118
3	Great Britain	66
4	Japan	56
5	Belgium	28
6	Poland	7

2024 INTERNATIONAL GERMAN CUP 競技結果

■競技結果

種目名	選手	タイム
メドレーリレー (4 × 50m) 【男子】	猪股 大地、関口 広太、繁田 龍之介、西山 俊	01分30秒61 (1位)
メドレーリレー (4 × 50m) 【女子】	名須川 紗綾、待井 ひなた、山田 純葉、山田 結	01分44秒01 (2位)
マネキンリレー (4 × 25m) 【男子】	関口 広太、西山 俊、原 柊太、繁田 龍之介	01分05秒99 日本新 (1位)
マネキンリレー (4 × 25m) 【女子】	名須川 紗綾、三井 結里花、待井 ひなた、山田 純葉	01分20秒01 日本新 (2位)
プールライフセーバーリレー (4 × 50m) 【男子】	猪股 大地、関口 広太、繁田 龍之介、西山 俊	01分47秒56 日本新 (3位)
プールライフセーバーリレー (4 × 50m) 【女子】	待井 ひなた、名須川 紗綾、三井 結里花、山田 結	失 格



LWC2024 オープンビーチフラッグス 男子1位 堀江 星斗



LWC2024 オープンビーチフラッグス 女子3位 石黒 七都



LWC2024 ユースビーチフラッグス 男子2位 斎藤 優心



LWC2024 IRB 男子団体 IRB レスキュー 第3位 D: 高橋 颯、C: 岸 瑛心、P: 立石 隆真



全日本シリーズ

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャンポイント	プールポイント	SERCポイント
1位	西浜サーフライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	59	20	19	20
2位	湯河原ライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	51	19	20	12
3位	鴨川ライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	47	13	15	19
4位	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	45	18	16	11
5位	白浜ライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	42	6	18	18
6位	大竹サーフライフセービングクラブ / 茨城県協会所属	37	9	14	14
7位	館山サーフライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	35	14	8	13
8位	南伊豆ライフセービングクラブ / 静岡県協会所属	34	12	13	9

全日本学生シリーズ<男子>

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャンポイント	プールポイント	SERCポイント
1位	日本体育大学	57	19	18	20
2位	東海大学湘南	56	20	17	19
3位	早稲田大学	53	18	19	16
4位	日本大学	49	14	20	15
5位	順天堂大学	30	15	1	14
6位	帝京大学	28	9	1	18
7位	東洋大学	26	10	16	
8位	慶應義塾大学	26	11	15	

全日本学生シリーズ<女子>

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャンポイント	プールポイント	SERCポイント
1位	日本体育大学	58	19	19	20
2位	東海大学湘南	57	20	20	17
3位	慶應義塾大学	54	18	18	18
4位	日本女子体育大学	45	17	15	13
5位	順天堂大学	45	14	17	14
6位	東京女子体育大学	34	12	6	16
7位	東海大学静岡キャンパス	29	1	9	19
8位	国士館大学	28	15	13	

全日本ジュニア・ユース・マスターズシリーズ<ジュニア>

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャンポイント	プールポイント
1位	湘南 GoldenAge アカデミー / 神奈川県協会所属	39	20	19
2位	西浜サーフライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	38	18	20
3位	鎌倉ライフガード / 神奈川県協会所属	36	19	17
4位	湯河原ライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	33	17	16
5位	勝浦ライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	27	16	11
6位	館山サーフライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	27	15	12
7位	湘南ひらつかライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	26	12	14
8位	KITAJIMAQUATICS / 東京都協会所属	25	7	18

全日本ジュニア・ユース・マスターズシリーズ<ユース U-15>

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャンポイント	プールポイント
1位	西浜サーフライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	39	20	19
2位	鎌倉ライフガード / 神奈川県協会所属	37	19	18
3位	KITAJIMAQUATICS / 東京都協会所属	35	15	20
4位	湘南 GoldenAge アカデミー / 神奈川県協会所属	34	18	16
5位	十文字中学・高等学校ライフセービングクラブ	33	16	17
6位	館山サーフライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	31	17	14
7位	牧之原ライフセービングクラブ / 静岡県協会所属	25	10	15
8位	勝浦ライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	25	14	11

全日本ジュニア・ユース・マスターズシリーズ<ユース U-18>

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャンポイント	プールポイント
1位	日本体育大学荏原高等学校ライフセービングクラブ	39	19	20
2位	西浜サーフライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	38	20	18
3位	館山サーフライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	35	18	17
4位	十文字中学・高等学校ライフセービングクラブ	29	13	16
5位	KITAJIMAQUATICS / 東京都協会所属	28	9	19
6位	昭和第一学園高等学校ライフセービングクラブ	27	12	15
7位	湘南 GoldenAge アカデミー / 神奈川県協会所属	27	15	12
8位	銚子ライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	25	11	14

全日本ジュニア・ユース・マスターズシリーズ<マスターズ>

順位	クラブ名・所属	合計	オーシャンポイント	プールポイント
1位	西浜サーフライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	39	20	19
2位	湯河原ライフセービングクラブ / 神奈川県協会所属	37	19	18
3位	銚子ライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	33	13	20
4位	館山サーフライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	33	16	17
5位	南伊豆ライフセービングクラブ / 静岡県協会所属	31	18	13
6位	九十九里ライフセービングクラブ / 千葉県協会所属	29	14	15
7位	湘南 GoldenAge アカデミー / 神奈川県協会所属	26	10	16
8位	波崎サーフライフセービングクラブ / 茨城県協会所属	26	12	14

ライフセービングスポーツ本部総括



ライフセービング
スポーツ本部
本部長 田村 憲章

2024年度のライフセービングスポーツ本部における競技推進事業は、世界大会「Lifesaving World Championships 2024 (LWC2024)」と、第50回の節目を迎えた全日本選手権を二本柱とし、国内外においてライフセービングスポーツのさらなる発展を図った一年となりました。

国際大会では、LWC2024（オーストラリア）にオープン・ユース・IRB 競技の日本代表チームを派遣し、それぞれのカテゴリーで健闘を見せました。中でも、オープン日本代表チームは長年の目標であった国別総合6位という過去最高成績を達成。さらに、SERC 種目および男子ビーチフラッグスにおいて堀江星汰選手が優勝するなど、歴史的な快挙を成し遂げました。SERC 種目は、ライフセービング日本代表チームがこれまで特に重視してきた種目であり、毎大会、優勝を目指して取り組んできました。今回の成果は、長年にわたる選手・スタッフ・関係者の尽力と、強化育成プログラムの積み重ねによる成果であり、今後の日本ライフセービングスポーツにとって大きな希望となりました。

さらに、2025年に中国・成都で開催される「The World Games 2025」への出場権も獲得しました。日本チームは、2023年8月1日から2025年1月31日までの対象期間に実施されたLWCやILS公認の国際大会において、4×25m マネキンリレー、4×50m メドレーリレー、4×50m プールライフセーバーリレーの3種目の合計得点で世界ランキング上位8カ国に入る成績を収めたことにより、男女チーム共に出場権を獲得しました。

国内においては、全日本ライフセービング選手権大会が第50回大会として片瀬西浜海岸で開催されました。これまでの歴史と歩みを振り返る機会として、選手・関係者にとって大変意義深い大会となり、多くの参加者にとって記憶に残る節目の大会となりました。

これからの競技会運営は、DX化を推進し、作業効率の改善と環境へも配慮した競技会を構築しています。

この他にも、スポーツ医科学委員会ではJLA主催競技会におけるトレーナーステーションの集計と分析を行い怪我防止に役立てるコンディショニング動画の配信を実施。アンチ・ドーピング委員会では、競技会出場選手向けに「ベーシック編」と「アドバンス編」に分けたオンライン・ドーピング防止講座を継続し、ドーピング防止の啓発活動を強化するなど、各委員会においてスポーツ推進事業を進めました。

今後は、科学的根拠に基づくアスリート育成パスウェイ (FTEM) の確立とともに、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格制度の構築・普及を進め、幅広い世代で一貫したライフセービングスポーツの発展を図ります。

そしてライフセーバーシップをもったライフセーバーたちによる「命を守るスポーツ」の魅力が「水辺の事故ゼロ」へ繋げ、社会へ果たす役割を最大としていけるよう努めて参ります。



第50回全日本ライフセービング選手権大会 総合優勝 西浜サーフライセービングクラブ



第50回全日本ライフセービング選手権大会

その他の事業

国際交流事業 国際ライフセービング連盟 (ILS) 役員及び専門委員会等

(事業実施の背景)

本協会は国内唯一の国際ライフセービング連盟 (ILS) への加盟団体として、その責務を果たす役割があり、これまでも様々な国際事業に積極的に取り組んできた。今後も水辺の事故ゼロに向け国際貢献するべくより一層の国際交流を深め、世界情勢を把握したうえで国際的な活動を推進していく。ILS 主催の総会や理事会、各種専門委員会や事業に本協会役員や委員を参加させネットワークの構築や情報収集を実施し、ILS の戦略プランの遂行に貢献する。

【2024 年度トピック】

・ILS 理事会 / 委員会

世界選手権に合わせて対面で、理事会が開かれた。会議の間には様々な団体や組織との打ち合わせがあり、各国から今後の JLA の国際的な場面での貢献に期待を感じられた。ILS 委員会には JLA から多くのメンバーが所属し各分野で貢献した。

・世界溺水防止デー

国連決議で毎年 7 月 25 日が「World Drowning Prevention Day 世界溺水防止デー」と宣言された。日本国内の情報発信源となるべく専用ページを設置しキャンペーンを行った。

・世界女性デーを記念して、溺水防止の分野で活躍する女性にフォーカスしたセミナーに登壇。オンラインで実施。アーカイブは下記から見られる。

https://www.youtube.com/watch?v=9Yqrm_XxZN4&t=3304s

・SLSA と JLA の戦略的パートナーシップの再確認をとりまとめ。2024 年 10 月、SLSA-John Baker AM ESM と JLA 理事長入谷拓哉が調印。

・SLSA とオーストラリア大使館に訪問。将来の取り組みについて再確認。

■国際ライフセービング連盟 (ILS) 役員及び専門委員会等

▽中川容子

ILS 理事、ILS アジア太平洋地区理事、Drowning Prevention Commission

・ILS、各国組織、団体及び WHO との連絡調整

・世界溺水防止デーについて国内で啓発

・国際会議出席など

・溺水防止シンポジウムに向けての WHO 本部との連絡調整

▽石川仁憲

Rescue Commission

・LS Position statements の改訂・新規作成、WCDP 関連、対外連携等

▽木村智美

Multi-Sport Games Committee

・オリンピック競技会への競技登録を働きかける取り組み、各大陸における重要な競技大会の調査・スケジュールまとめ、選考種目、関係者への働きかけ等

▽栗栖清浩

Lifesaving Sport Regulations Committee

・ILS 競技規則改定審議及び競技規則の公開、LWC ハンドブック準備、今後の競技種目検討等

▽青木将展

Future of Lifesaving Sport Committee

・世界大会・ワールドゲームズ等の競技会形式等の調査・研究、革新的なイベント検討

▽泉田昌美

Lifesaving Sport for All Committee

・ジェンダーや障害を持つ人たちの競技 / 活動に関する協議

・ニュージーランドやオーストラリアの障害を持つ子供たちの競技会への参画

▽出木谷啓太

Athletes Commission

・競技者の視点におけるライフセービングスポーツの繁栄・発展のための活動

▽錦織功延

Therapeutic Use Exemptions Committee

・ILS 主催大会への TUE 申請の承認の可否の協議

・WADA が発行する TUE についての最新の知識共有

広報活動事業

■ SNS 利活用による情報発信

公式ホームページ等、SNS を通じて本協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体	ページビュー ユーザー数
公式 JLA サイト	276,121 PV (前年比 102%)
公式 LIFESAVING サイト	166,858 人 (前年比 105%)
	599,255 PV (前年比 86%)
	127,054 人 (前年比 87%)

媒体	フォロワー数
公式フェイスブック	6,472 (前年比 103%)
インスタグラム	4,379 (前年比 114%)

■広報資料の作成

プレスリリース等の広報資料を通じて当協会の理念や事業活動を情報発信した。

媒体名	件数
プレスリリース	26

■メディア取材対応

媒体名	件数
新聞	14
テレビ・ラジオ	30
雑誌	12
Web サイト	11

■アニュアルレポートの発行

「2023 年度事業報告」を編集して冊子発行した。

■ 2024 Water Safety キャンペーン

6 月 1 日～ 9 月 30 日までを水辺の安全教育「Water Sasety」を周知広報する強化月刊として「2024 Water Safety キャンペーン」を実施した。月間毎のテーマをかかげ、SNS を中心に WaterSafety の普及・啓発をした。

【月間テーマ】

6 月「知ろう Water Safety 月間」

7 月「身につけよう Water Safety 月間」

8 月「行動しよう Water Safety 月間」

9 月「誰もがライフセーバー月間」

【啓発動画】

<日本財団事業>

e-Lifesaving の閲覧促進につながる事を目的にスマートフォンを意識した縦型 PR 動画を作成した。出演者に元競泳日本代表選手 松田 丈志さんをむかえ、3 本作成した。



功労賞

田中 えりか
ライフセービングスポーツ本部
競技審判委員会 /SERC 分科会
大竹サーフライフセービングクラブ

世界基準の SERC 競技会を日本に導入するために、ライフセービング世界選手権大会の SERC 競技審判を経験し、その後も実績のあるオーストラリアロイヤルライフセービング協会との競技審判団とのミーティングを重ね、2021年に日本初単独開催に尽力した。その後競技会ルールの普及や JLA ハイパフォーマンスチームへのサポートも続け、LWC2024での日本代表 SERC 競技優勝に大きく寄与したと言える。

特別功労賞

LWC2024 日本代表 SERC 競技優勝

上野 凌
西浜サーフライフセービングクラブ

西山 俊
湯河原ライフセービングクラブ

三井 結里花
館山サーフライフセービングクラブ
西浜サーフライフセービングクラブ

森下 広大
鴨川ライフセービングクラブ

ライフセービングスポーツ競技会で、ライフセービングの象徴とも言える競技「SERC 競技」で、これまで銀メダルの実績しかなかった日本代表だったが、LWC2024で悲願の優勝を獲得した。初代表の森下選手がリーダーとなり、英語を屈指して的確な指示と場面判断で、ベテランの西山選手、三井選手、上野選手とともに、見事優勝を獲得した。

LWC2024 日本代表
ビーチフラッグス男子競技優勝

堀江 星冴
勝浦ライフセービングクラブ

これまでの世界選手権大会において、日本のお家芸とも言われ、メダル獲得実績もあるビーチフラッグスだが、LWC2024では、1996年以來28年ぶりに金メダルを獲得した。オープン日本代表は過去最高位の6位を獲得し、総合ポイントに大きく貢献した。

ライフセーバーオブザイヤー 2024 ～ロンランキンアワード～

普及、発展に著しく貢献した個人団体を、推薦投票によって決定し、表彰した。

■救命賞
一般社団法人
大分県ライフセービング協会

大分県水難救済会と一般社団法人大分県ライフセービング協会の『水難事故救助・防止に関する協定』により、佐伯、蒲江、上入津、別府救難所の救難所員を対象に、ライフセービングサポーター講習を実施。大分県水難救済会と共催で小学生を対象に『海の安全教室』を開催。大分県教育委員会主催の『大分県水泳プール安全管理講習会』を2024年度もライフセービングサポーター講習会の一環として実施し、教育現場における溺水事故防止活動の普及に努めた。また、JLA シミュレーション審査会を機に、高校生、大学生の学生ライフセーバーの救助救護技術の向上に努める等、監視救助活動全体の技術向上を図っている。

■スポーツ賞
南部 裕紀子
若狭和田ライフセービングクラブ

2024年オーストラリアゴールドコーストで開催されたライフセービングワールドチャンピオンシップス 2024(LWC2024)において、マスターズカテゴリー(35-39歳)に出場し、オーシャン種目にてサーフスキー、アイアンウーマン、サーフレースの3種目で優勝を果たした。ライフセービング競技への熱い想いと弛まぬ努力によって輝かしい成績をLWC2024にて残したことで、推薦投票された。

■教育賞
風間 隆宏
西浜サーフライフセービングクラブ

JLA インストラクターとして、ライフセービングサポーター講習会を17回、計1,989名を対象に実施された。ライフセービングサポーター講習会は、カリキュラムが定められている資格認定講習会とは異なり、依頼者側のニーズに合わせて短時間(90分前後)で開催する。そのため、インストラクター個人の指導力はもちろん、講習運営のマネジメント能力や依頼者側とのコミュニケーション能力も必要になる。2022年度で日本ライフセービング協会理事およびアカデミー本部長を退任後も、いちインストラクターとして水辺の事故防止のための教育活動に尽力される姿は、すべてのライフセーバーの模範となっている。



関係諸団体との連携推進

関係諸団体との連携推進

本協会の理念や活動目的に賛同・協力する地方ブロック協会、都道府県協会や加盟クラブ、関連諸団体と積極的に連携し、外部団体や広く国民に対してライフセービングの普及・促進を図る。また、関係する官公庁や教育諸機関及びスポーツ諸団体等との積極的な連携を促進した。

会議名等	日程 内容 会場
都道府県協会 意見交換会	9月16日 ・監視救助事業の実態調査 ・日本水難救済会との連携 オンライン開催
都道府県協会 代表者会議	3月1日 ・本部報告及び意見交換 ハイブリッド開催

他団体との連携・協力

■一般社団法人 日本サーフィン連盟

(継続)JLA 理事長が理事に選任 (2023)
(継続)パートナーシップ協定の締結 (2018-6/7)

(継続)WSUPPC 世界大会への選手派遣

■公益財団法人 日本水泳連盟

(継続)パートナーシップ協定の締結 (2024-3/19)

(継続)OWS 事業協力の締結 (2016-2/26)

(継続)日本水泳連盟主催 OWS 競技会及び国民体育大会等の安全担当員及びライフセーバー派遣

■公益社団法人 日本水難救済会

(継続)水難事故救助・防止に関する協定の締結 (2023-4/24)

■公益社団法人 日本ローイング協会

(継続)パートナーシップ協定の締結 (2023-7/19)

■NPO 神奈川県ライフセービング協会

(継続)包括協定の締結 (2023-4/1)

■公益社団法人 日本スポーツ協会

(継続)承認団体として加盟 (2023)

■一般社団法人 日本スポーツ政策推進機構

(継続)一般会員として団体加盟 (2023)

■UMI 協議会

(継続)活動会員として団体加盟 (2023)

■一般社団法人 日本水路協会

(継続)「沿岸海域の総合管理のための地形データの整備プロジェクト」委員派遣 (2023)

■気象庁

(継続)水難事故防止・防災に関する協定 (2020-12/24)

(継続)津波旗講演会 / 講師派遣
(継続)津波旗啓発ポスター、リーフレット、デモ映像普及協力

■海上保安庁

(継続)事故防止対策等に関する協定 (2017-3/15)

(継続)「海の安全推進本部・海の安全推進アドバイザー」委員委嘱

(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」制作協力

■消費者庁

(継続)「消費者安全調査委員会専門委員」委嘱

■スポーツ庁

(継続)委託事業「令和の日本型学校体育構築支援事業」

(継続)「水泳等の事故防止について(通知)」
(継続)「スポーツ施設等安全管理講習会指導員派遣協力(通知)」

(継続)ICT 教育コンテンツ「e-Lifesaving」情報提供

■公益社団法人 日本トライアスロン連合

(継続)パートナーシップ協定の締結 (2016-3/16)

(継続)日本トライアスロン連合主催競技会及び国民体育大会等への安全担当員及びライフセーバー派遣

■一般社団法人 日本マスターズ水泳協会

(継続)パートナーシップ協定の締結 (2018-7/27)

(継続)日本マスターズ水泳協会主催競技会へのライフセーバー派遣

■特定非営利活動法人 日本ワールドゲームズ協会

(継続)正会員として団体加盟

(継続)JLA 事務局長が監事として選任

■一般社団法人 日本救護救急学会

(継続)JLA メディカルダイレクター他役員が理事として選任

■一般社団法人 民間救命士統括体制認定機構

(継続)JLA 理事長が理事、そのほか専門委員が統括医師研修認定委員会委員、救急救命士研修認定委員会委員として選任

■一般社団法人 吉川慎之介記念基金

(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」普及協力

■公益財団法人 河川財団

(継続)水辺の安全教育プログラム推進「e-Lifesaving」制作協力

■御宿町 (千葉県)

(継続)相互協力協定の締結 (2015-12/15)

(継続)IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施 (2019 年運用開始)

■宮崎市 (宮崎県)

(継続)IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施 (2020 年運用開始)

■高浜町 (福井県)

(継続)IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施 (2021 年運用開始)

■鎌倉市 (神奈川県)

(継続)IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の実施 (2022 年運用開始)

■下田市 (静岡県)

(継続)IOT 監視救助システム「海辺のみまもりシステム」による離岸流等事故防止活動の導入 (2023 年運用開始)

■神奈川県

(継続)海岸における水難事故防止等に向けた取り組みの推進と安全安心な海岸づくりの実現を図る連携と協力に関する包括協定締結 (2020-6/19)

■牧之原市 (静岡県)

(継続)「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結 (2022-5/9)

■国際武道大学 (千葉県)

(継続)「ライフセービングスポーツの発展と人材の育成・強化に関する包括協定」締結 (2021-4/1)

■学校法人 国士館 (東京都)

(継続)「ドローンを活用した防災・救急救助の発展とそれに係る人材の育成・交流に関する包括協定」締結 (2022-7/1)

■高知市児童プール事故検証委員会

(新規)JLA 担当理事を委員として派遣 (2024)

■東京都商品等安全対策協議会

(新規)JLA 担当理事を委員として派遣 (2024)

暴力・ハラスメント等の防止に向けた研修会

JLA 理事、監事、専門委員、指導員、事務局員を対象に、暴力・ハラスメント等について正しく理解するとともに、研修会を通じて一人ひとりの意識や価値観、温度差の違いに気づくこと、暴力・ハラスメント等の発生や潜在化を防止することを目的に以下の日程でオンライン研修会を開催した。公益財団法人日本スポーツ協会インテグリティ推進部に講師派遣を依頼した。

1回目	令和6年11月09日(土)	参加 16:00～17:30	40名
2回目	令和6年11月18日(月)	参加 19:00～20:30	109名
3回目	令和6年11月27日(水)	参加 19:00～20:30	53名
合計			202名

また、後日、対象者を限定して、オンライン研修会の模様の録画動画を視聴できるように限定公開を実施した。

「ダメ、ゼッタイ。」普及運動

全世界的に広がりを見せている薬物乱用問題に取り組むために、厚生労働省医薬局が主催として取り組む「ダメ、ゼッタイ。」普及運動に JLA が後援団体として参加し、ポスターやリーフレットに後援団体として JLA の名義が掲載され、都道府県ライフセービング協会、加盟ライフセービングクラブを通じて学生ライフセーバーへ薬物乱用防止を啓発した。

認定海水浴場認証事業

<日本財団助成事業>

国際ライフセービング連盟のリスク評価指標及び本協会独自の指標に基づき海水浴場の安全性を総合的に評価し認証する「認定海水浴場認証事業」を行った。合計で 43 か所となっている。

新規認証5か所

1. 熱川 You 湯ビーチ海水浴場 (静岡県東伊豆町)
2. 今井浜海水浴場 (静岡県河津市)
3. 石狩浜海水浴場 (北海道石狩市)
4. 磯ノ浦海水浴場 (和歌山県和歌山市)
5. 片男波海水浴場 (和歌山県和歌山市)

更新認証12か所

※更新3年

1. 白浜中央海水浴場 (静岡県下田市)
2. 白浜大浜海水浴場 (静岡県下田市)
3. 外浦海水浴場 (静岡県下田市)
4. 多々戸浜海水浴場 (静岡県下田市)
5. 入田浜海水浴場 (静岡県下田市)
6. 吉佐美大浜海水浴場 (静岡県下田市)
7. 北条海水浴場 (千葉県館山市)
8. 本須賀海水浴場 (千葉県山武市)
9. 逗子海水浴場 (神奈川県逗子市)
10. 若狭和田海水浴場 (福井県高浜町)
11. 須磨海水浴場 (兵庫県神戸市)
12. 田ノ浦海水浴場 (大分県大分市)

リスク評価1か所

(ブルーフラッグ)

1. 吉里吉里海水浴場 (岩手県大槌町)

海のそなえプロジェクト

<日本財団助成事業>

4団体のコンソーシアムにてプロジェクトに取り組んだ。本協会では「全国における水難事故の実態調査分析及びナショナルデータ構築」と「ウォーターセーフティ・ナショナルカリキュラムの開発」に実施した。

<4団体>

- ・公益財団法人日本財団
- ・一般財団法人うみらい環境財団
- ・公益社団法人日本水難救済会
- ・公益財団法人日本ライフセービング協会

<プロジェクト>

- ・水難事故に関する調査
- ・水難事故防止教育プログラムの開発
- ・フローティングアイテム普及推進
- ・海のそなえ普及コンテンツ開発
- ・情報発信 (シンポジウム等の開催)



2024年度 組織概要

ビジョン VISION

水辺の事故ゼロ

ミッション MISSION

水辺における安全知識と技能を広め、
誰もが安全に楽しむことのできる社会へ。

ミッションを実現するための8つの戦略

ストラテジー STRATEGY

- Strategy1 ライフセービングを通じた生命教育の普及
- Strategy2 認定ライフセーバーの育成
- Strategy3 先端技術による安心安全な水辺空間の創出
- Strategy4 ライフセービングの職業化
- Strategy5 ライフセービングスポーツの発展
- Strategy6 アジアパシフィックを中心とした国際貢献
- Strategy7 都道府県協会・加盟クラブへの支援
- Strategy8 ライフセービング支援者の創出

1991年に日本ライフガード協会と日本サーフライフセービング協会が統一し、「日本ライフセービング協会〈初代理事長/金子 邦親〉」が設立されました。2001年にこれまでの任意団体としての役割を経て「特定非営利活動法人日本ライフセービング協会〈前理事長/小峯 力〉」となり、2019年に公益法人の認定を受け「公益財団法人日本ライフセービング協会〈理事長/入谷 拓哉〉(以下、JLAという)」として新たにスタートしました。

日本のライフセービング界を代表して国際ライフセービング連盟に加盟する唯一の団体として、国際的な視野から、海岸をはじめとする全国の水辺の事故防止に向けた安全教育、監

視・救助、防災、防災教育、環境保全等を行うライフセービングの普及・啓発及び発展に関する事業を行い、国民の安全かつ快適な水辺の利用に寄与することを目的としています。水辺の事故ゼロをめざし、「人と社会に変革をもたらす」法人として、「教育」「救命」「スポーツ」「環境」「福祉」(=JLAヒューマンチェーン)といった領域における生命尊厳の輪を普及していく社会貢献活動を行っています。また、ライフセービングのさらなる発展をめざした戦略としてJLA グランドデザイン 2061を掲げ、水辺の事故ゼロをめざして全国のライフセーバーとともに、誰もが安全知識を持ち、水辺を安全に楽しめる社会の創造に努めています。

ヒューマンチェーン HUMANCHAIN

生命尊厳を通じた社会への貢献

ヒューマンチェーンとは、救助者同士の手首を互いにつかみ(人間の鎖)、水没した溺者を捜索する方法です。ライフセービングでは「ライフセービングそのものを学び、実践していくこと」「ライフセービングによって獲得した生命の尊厳の精神をあらゆる分野に社会貢献していくこと」の二通りがあります。いずれも人間がテーマであり、人間が人間を救う・守ることを根底に、生命のあるものが生命を救う自然の摂理を崇める、という歴史の普遍性を獲得していく活動展開を表現したものです。



スィム&サバイブ SWIM&SURVIVE

水辺の危険を理解し生きる力を学ぶ

水の特性を知り、さらに水辺(海、河川、湖沼、プール、池、水路ほか)にはどのような危険があるのかを十分理解し、泳ぎの基本を学ぶことと同時に、その危険に自ら対処する方法(スィム&サバイブ)を体得していれば、いろいろな活動体験を通じて安心して多くの学びや感動を得ることができます。

事故防止の基本的な考え方として、特に自然環境下の活動では、時間的・空間的に変化する危険な場所を理解し、その対応を考えることができる能力が求められます。

JLAは、水辺における様々な活動において危険な状況にならないように、「楽しみながら安全を考えて行動できる能力」を身につけるための教育を進めています。

Swim & Survive



Organization 組織概要

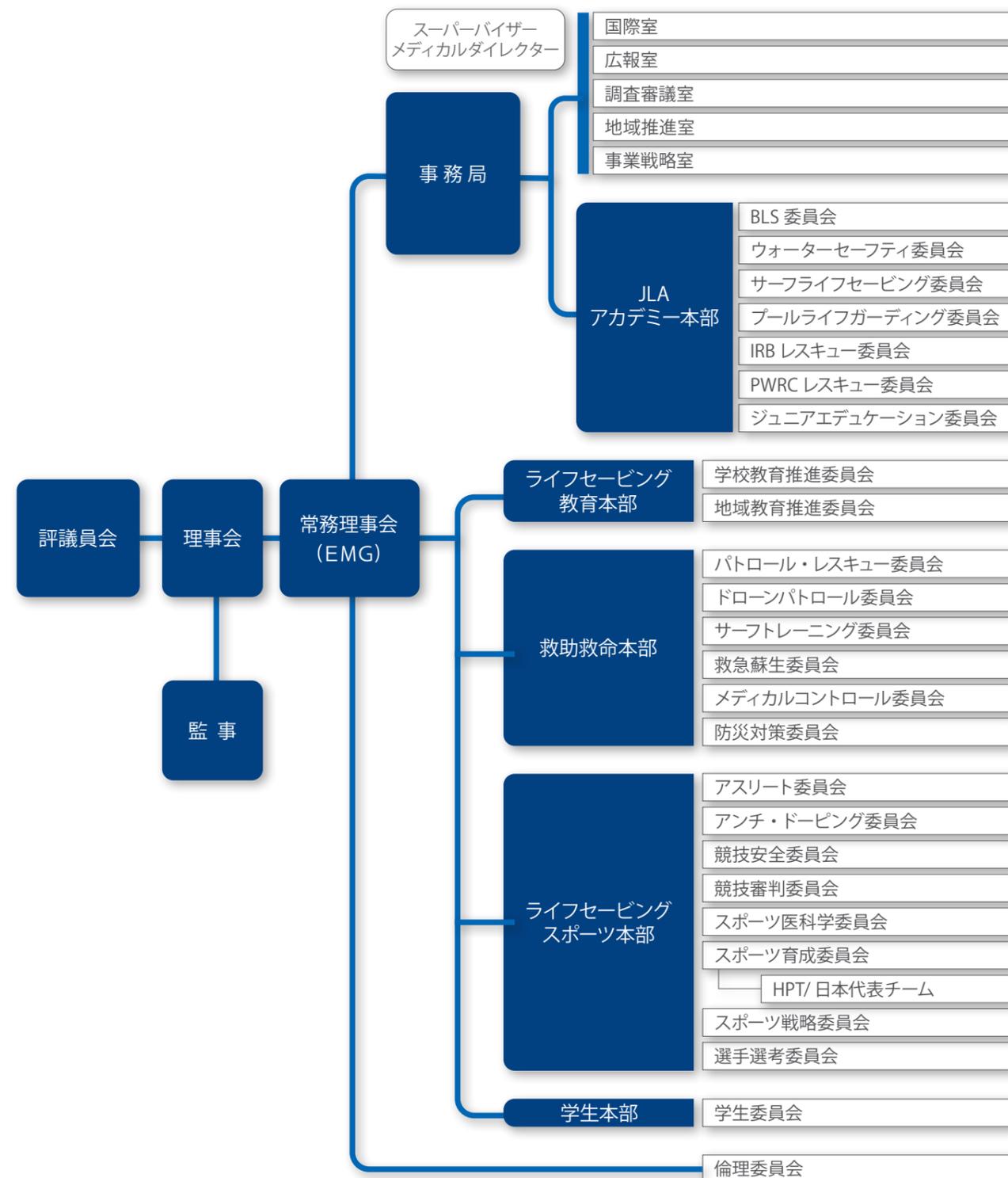
組織関係図

日本ライフセービング協会（以下 JLA）は、国際ライフセービング連盟（以下 ILS）の正会員として、アジア太平洋地区に属している日本代表機関です。JLA グランドデザイン 2061 に沿って、役員、専門委員会、事務局が事業計画を立て、全国の都道府県ライフセービング協会および加盟クラブとともに、関係諸機関、各方面からの、寄付、協賛、助成、協力をいただき、水辺の事故ゼロをめざして活動しています。



2025年3月31日現在

組織図



2025年3月31日現在

役員・専門委員会・事務局・加盟団体

■評議員

岩城 光英
日本トライアスロン連合 会長、元法務大臣

岩並 秀一
元海上保安庁長官（第45代）

小峯 力
中央大学 教授、博士（救急救命学）

酒匂 敏次
東海大学 名誉教授

島崎 修次
学校法人国士館 理事、博士（医学）

鈴木 大地
初代スポーツ庁 長官、日本水泳連盟 会長

千葉 景子
弁護士、元法務大臣

■理事

理事長
入谷 拓哉（EMG 統括）

副理事長
高野 絵美（広報室）
松本 貴行（ライフセービング教育本部）

常務理事
石川 仁憲（救助救命本部）

理事
鎌田 綾子（調査審議室、倫理委員会）
白井 勇喜（学生本部）
田村 憲章（ライフセービングスポーツ本部）
中川 容子（国際室）
平野 玲奈（事業戦略室）
細田 直彦（地域推進室）

■監事

工藤 孝志
文珠寺 裕之

■スーパーバイザー

足立 正俊
飯沼 誠司
上野 真宏
小峯 力
豊田 勝義
中見 隆男
山本 利春

■メディカルダイレクター

中川 儀英
東海大学医学部救命救急医学 領域主任教授
田中 秀治
国士館大学大学院救急システム研究科 教授
鍛冶 有登
岸和田徳洲会病院 救命救急センター長
北村 伸哉
君津中央病院 医務局長・救命救急センター長
朽方 規喜
日産自動車グローバル本社産業医
吉澤 大
東海大学医学部総合診療学系救急医学領域教授（特任）

■顧問

青木 伸一
大阪大学工学研究科 名誉教授・工学博士

風間 隆宏
元常務理事

鈴木 美昭
元株式会社電通 執行役員、日本トライアスロン連合 顧問

■ライフメンバー

金子 邦親（故人）
JLA 初代理事長

相澤 重男
日本ライフセービング評議会 議長、元 JLA 理事

遠藤 義晴
SLSA-J 初代代表

築山 由雄
SLSA-J 代表、元 JLA 専務理事、元 JLA 常務理事

中見 隆男
JLGA 副会長、元 JLA 専務理事

田中 裕（故人）
JLGA 初代副会長、元 JLA 理事

足立 正俊
SLSA-J 副代表、元 JLA 理事

相澤 千春
元 ILS 理事

■JLA ACADEMY 本部

本部長 / 佐藤 洋二郎

副本部長 / 阿部 健・江川陽介・関口 義和

▼BLS委員会

安田 春暁（委員長）
今堀 加奈子・谷川 真莉菜・浜田 博孝

▼ウォーターセーフティ委員会

竹内 啓（委員長）
小笠原 宏之・小林 利浩・篠田 敦子
村井 亜紗子・長崎 靖子・一條 恵理子

▼サーフライフセービング委員会

関口 義和（委員長）
内田 直人・木島 悠太郎・吹田 光弘
多胡 誠・宮田 沙依・弓削 匠

▼プールライフガーディング委員会

大塚 敏幸（委員長）
秋葉 佑貴・久條 美佳
村井 亜紗子・山本 良徳

▼IRB レスキュー委員会

渡辺 幸男（委員長）
飯塚 剛志・井藤 秀晃・田中 えりか
芹澤 祐介

▼PWRC レスキュー委員会

音野 太志（委員長）
河波 弘晃・古中 洋平・宮崎 康夫

▼ジュニアエデュケーション委員会

石原 早織（委員長）
土谷 ころこ・中本 恵子・藤井 正弘

■ライフセービング教育本部

本部長 / 松本 貴行

副本部長 / 木島 悠太郎

▼学校教育推進委員会

松本 貴行（委員長）
安達 雄太・小田 眞木子・島田 貴史
萩原 隆次郎・榎屋 桃花・浅田 勇樹
小崎 遼介

▼地域教育推進委員会

木島 悠太郎（委員長）
石原 早織・楠本 慶明・國木 孝治
高橋 悠・中村 佐知子・玉虫 湧也

■救助救命本部

本部長 / 石川 仁憲

副本部長 / 菊地 太

▼パトロール・レスキュー委員会

菊地 太（委員長）
小林 俊樹（副委員長）
石川 優太・内田 直人・小山 大介
酒井 響和子・佐藤 文机子
竹内 啓・田原 幸佑
中田 善方・名取 芳和・古中 信也
枡見 吉朗・宮原 光興・藤井 正弘
縄手 大志・山口 智史・末次 尚之
林 隆次・原 伸輔・門間 智幸

▼ドローンパトロール委員会

石川 仁憲（委員長）
石川 優太・楠本 慶明・小崎 遼介
小林 俊樹・嶋田 廣人・古中 洋平
門間 智幸・縄手 大志・山口 智史

▼サーフトレーニング委員会

荒井 洋佑（委員長）
内田 直人・榎本 宏暉・榎 本由里
大西 明・落合 慶二
玉虫 湧也・出木谷 啓太

▼救急蘇生委員会

中川 儀英（委員長）
福島 圭介（副委員長）
皆藤 竜弥・小松崎 伸一・坂梨 秀地
門間 智幸

▼メディカルコントロール委員会

中川 儀英（委員長）
田中 秀治・鍛冶 有登・北村 伸哉
朽方 規喜・吉澤 大・菊地 太・宮原 光興
佐藤 文机子・佐藤 洋二郎・関口 義和
大塚 敏幸

▼防災対策委員会

内田 直人（委員長）
小山 大介・谷川 真莉菜・玉虫 湧也
中根 大文

■ライフセービングスポーツ本部

本部長 / 田村 憲章

副本部長 / 青木 将展・上野 凌・水川 雅司

▼アスリート委員会

出木谷 啓太（委員長）
石塚 円香・上野 凌・坂本 真徳・塚越 心
西山 俊・斎藤 健一郎・篠 岳瑠

▼アンチ・ドーピング委員会

錦織 功延（委員長）
小西 由紀・須田 邦彦

▼競技安全委員会

板垣 俊輔（委員長）
天野 駿介・飯塚 剛志
上野 義洋・江川 陽介・大橋 一輝
小山 大介・加藤 圭織・金川 もも
鈴木 慎一・高橋 颯・中村 佐知子
松永 祐・山本 良徳

▼競技審判委員会

中島 典子（委員長）
梶本 道彦・栗栖 清浩・日馬 孝昌
南部 孝二・藤田 善照・毛利 智
▽SERC 分科会
田中 えりか・坂本 陸・奈良部 真弓

▼スポーツ医化学委員会

青木 将展（委員長）
笠原 政志・清水 伸子・名須川 紗綾
松本 恵・吉沢 幸花

▼スポーツ育成委員会

青木 将展（委員長）
荒井 宏和・植木 将人・北矢 宗志
細川 英範
▽IRB 競技分科会
鈴木 慎一・飯塚 剛志・井藤 秀晃

▼HPT コーチ・スタッフ

オープン監督 / 植木 将人
コース監督 / 北矢 宗志
コーチ / 大島 圭介・坂本 陸
筒井 健裕・池谷 雅美・鈴木 慎一
アシスタントコーチ / 具志堅 夕・平野 修也
トレーナー / 細川 英範・笠原 政志
加藤 義明・神崎 智大
清水 伸子
専門スタッフ / 錦織 功延・小西 由紀
松本 恵・吉沢 幸花・梶田 光里
アシスタントスタッフ / 小田切 伸矢
楠本 佳凧子・小林 海

▼スポーツ戦略委員会

上野 凌（委員長）
新井 大介・小野 稜平・小森 健登
鈴木 耀太・戸向 陽介・平岡 由宇
日馬 孝昌・玉虫 湧也・中村 萌夏

▼選手選考委員会

青木 将展（委員長）
植木 将人・北矢 宗志・荒井 宏和

■学生本部

本部長 / 白井 勇喜
副本部長 / 梅林 寛人・戸向 陽介

▼学生委員会

志賀 海征（委員長）
徳嶺 仁美（副委員長）
福田 響（主務）
村山 実優（副務）

■倫理委員会

青沼 隆之（委員長） / 弁護士・元名古屋高検 検事長
佐藤 義明（副委員長） / 成蹊大学法学部 教授
鎌田 綾子（委員） / JLA 理事

■国際室

中川 容子（室長）
相澤 千春・平野 玲奈・桂 里帆
木村 智美・城間 盛隆・鈴木 慎一
高橋 愛海・古井 悠太・細井 梨沙

■広報室

高野 絵美（室長）
阿部 健（アカデミー本部）
桂 里帆（国際室）
菊地 太（救助救命本部）
楠本 慶明（ライフセービング教育本部）
平野 玲奈（事業戦略室）
出木谷 啓太（ライフセービングスポーツ本部）
山口 智史（WEB オペレーション担当）

■調査審議室

鎌田 綾子（室長）
尾田 智史（大分県LS協会 代表）
高野 絵美（副理事長）
永井 巧（一般社団法人「そっか」代表）
山口 毅（横浜市立中学校 校長）

■地域推進室

細田 直彦（室長）
田原 幸佑・古橋 理

■事業戦略室

平野 玲奈（室長）
▽監視救助事業チーム
入谷 拓哉（リーダー）
井藤 秀晃・諸節 智章・水川 雅司（事務局）
▽イベント安全チーム
石井 英一（リーダー）
音野 太志・河波 弘晃
篠田 敦子・名須川 開渡・古中 洋平
宮崎 康夫・安田 春暁
▽ライフセービング事業チーム
入谷 拓哉（リーダー）
石川 仁憲・上野 凌・音野 太志
菊地 太・佐藤 洋二郎（事務局）
▽ファンドレイジングチーム
平野 玲奈（リーダー）
入谷 拓哉・高野 絵美・中川 容子
細田 直彦・中山 昭（事務局）
▽アクアティック イベント セーフティー
コーディネーター分科会（ASC）
大平 拓司・小山 大介・楠本 慶明
谷川 あおい・小林 涼子・天野 俊介
來島 慎太郎・宮川 満寿雄・石原 進介
西岡 あゆみ・平田 和太龍・土居 均
谷口 博信・辻岡 正弘・堀尾 卓美
熊澤 一彦・石丸 英生・串田 愛
直江 宏二・山下 丞・立田 謙介・小山 豊

■事務局

川地 政夫（事務局長）
佐藤 洋二郎（事務次長）
中山 昭（事業推進役）
水川 雅司
川名 健太郎

【国際ライフセービング連盟 (ILS)】

中川 容子
ILS 理事
ILS アジア太平洋地区理事
Drowning Prevention Commission,
Child Drowning Committee

石川 仁憲
Rescue Commission,
Rescue Operations Committee

出木谷 啓太
Athletes Commission

青木 将展
Sports Commission,
Future of Lifesaving Sport Committee

泉田 昌美
Sports Commission,
Lifesaving Sport for All Committee

木村 智美
Sports Commission,
Multi-Sport Games Committee

栗栖 清浩
Sports Commission,
Lifesaving Sport Regulations Committee

錦織 功延
Sports Commission,
Therapeutic Use Exemptions Committee

【外部専門委員会】

■JLA 海水浴場安全性評価特別委員会

中川 儀英（委員長）
東海大学医学部救命救急医学 領域主任教授
青木 伸一
大阪大学工学研究科 名誉教授・工学博士

田中 秀治
国士館大学大学院救急システム研究科 教授

小峯 力
中央大学 教授、博士（救急救命学）

石川 仁憲
JLA 常務理事 救助救命本部長・工学博士・技術士

音野 太志
一般社団法人 Japan Water Patrol 代表理事

【他団体への派遣】

■公益財団法人日本水泳連盟 (JASF)
セフティ・オフィサー / 石井 英一・河波 弘晃
篠田 敦子・安田 春暁

■一般社団法人日本マスターズ水泳協会(JMSA)
安全委員 / 石井 英一・田村 浩志

■民間救命士統括体制認定機構
理事 / 入谷 拓哉
統括医師研修・認定委員会 / 中川 儀英
救急救命士研修・認定委員会 / 福島 圭介

■一般社団法人日本救護救急学会
理事 / 中川 儀英

■海上保安庁
海の安全推進アドバイザー / 石川 仁憲

■消費者庁
消費者安全調査委員会 / 松本 貴行

■特定非営利活動法人日本ワールドゲームズ協会
監事 / 川地 政夫

■一般社団法人日本サーフィン連盟
理事 / 入谷 拓哉

■高知市児童プール事故検証委員会
委員 / 松本 貴行

■東京都商品等安全対策協議会
特別委員 / 松本 貴行

【都道府県ライフセービング協会】

■北海道ライフセービング協会
代表 / 国見 将之

■岩手県ライフセービング協会
代表 / 菊池 健一

■山形県ライフセービング協会
代表 / 木村 潤一

■宮城県ライフセービング協会
代表 / 小松 忠男

■福島県ライフセービング協会
代表 / 中本 恵子

■新潟県ライフセービング協会
代表 / 上森 一利

■富山県ライフセービング協会
代表 / 須田 裕子 (代理)

■茨城県ライフセービング協会
代表 / 山地 智仁

■千葉県ライフセービング協会
代表 / 林 昌広

■東京都ライフセービング協会
代表 / 佐藤 和伯

■神奈川県ライフセービング協会
代表 / 白井 勇喜

■静岡県ライフセービング協会
代表 / 文珠寺 裕之

■愛知県ライフセービング協会
代表 / 鈴木 雄三

■福井県ライフセービング協会
代表 / 須藤 竜之助

■京都府ライフセービング協会
代表 / 山本 良徳

■兵庫県ライフセービング協会
代表 / 古中 洋平

■大阪府ライフセービング協会
代表 / 鍛冶 有登

■鳥取県ライフセービング協会
代表 / 本田 貴志

■島根県ライフセービング協会
代表 / 柳楽 武臣

■岡山県ライフセービング協会
代表 / 柚木 一郎

■広島県ライフセービング協会
代表 / 藤井 正弘

■山口県ライフセービング協会
代表 / 新名 文博

■徳島県ライフセービング協会
代表 / 住瀬 秋彦

■香川県ライフセービング協会
代表 / 直江 宏二

■福岡県ライフセービング協会
代表 / 田原 幸佑

■長崎県ライフセービング協会
代表 / 榎屋 桃花

■大分県ライフセービング協会
代表 / 尾田 智史

■宮崎県ライフセービング協会
代表 / 藤田 和人

■鹿児島県ライフセービング協会
代表 / 山下 丞

■沖縄県ライフセービング協会
代表 / 音野 太志

収支

経常収益 (収入)	532,579,453 円
経常費用 (支出)	545,988,247 円

貸借対照表

(単位: 円)

	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	70,691,127	85,169,520	△ 14,478,393
未収金	20,857,326	30,463,460	△ 9,606,134
商品	1,645,989	2,940,661	△ 1,294,672
前払金	186,290	981,535	△ 795,245
仮払金	0	33,000	△ 33,000
流動資産合計	93,380,732	119,588,176	△ 26,207,444
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計			
(2) 特定資産			
什器備品	7,362,632	8,922,328	△ 1,559,696
船舶	4,773,215	4,225,271	547,944
特定資産合計	12,135,847	13,147,599	△ 1,011,752
(3) その他固定資産			
建物	3,255,454	3,454,452	△ 198,998
車両運搬具	1	91,667	△ 91,666
什器備品	2,213,542	3,538,869	△ 1,325,327
船舶	439,590	1,318,768	△ 879,178
電話加入権	374,920	374,920	0
敷金	4,152,700	4,152,700	0
保証金	596,134	554,224	41,910
長期前払費用	15,511	43,726	△ 28,215
その他固定資産合計	11,047,852	13,529,326	△ 2,481,474
固定資産合計	23,183,699	26,676,925	△ 3,493,226
資産合計	116,564,431	146,265,101	△ 29,700,670
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	28,250,541	31,637,025	△ 3,386,484
未払消費税等	3,158,800	2,220,000	938,800
前受金	0	6,757,400	△ 6,757,400
預り金	1,007,883	918,240	89,643
仮受金	28,275	20,000	8,275
流動負債合計	32,445,499	41,552,665	△ 9,107,166
2. 固定負債			
長期借入金	7,380,000	17,220,000	△ 9,840,000
固定負債合計	7,380,000	17,220,000	△ 9,840,000
負債合計	39,825,499	58,772,665	△ 18,947,166
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
民間助成金	12,135,847	13,147,599	△ 1,011,752
指定正味財産合計	12,135,847	13,147,599	△ 1,011,752
(うち基本財産への充当額)			
(うち特定資産への充当額)	(12,135,847)	(13,147,599)	(△ 1,011,752)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)			
(うち特定資産への充当額)			
正味財産合計	76,738,932	87,492,436	△ 10,753,504
負債及び正味財産合計	116,564,431	146,265,101	△ 29,700,670

2024年度を振り返って

水辺の事故ゼロを実現するためには、水辺の安全教育「Water Safety」の普及が必要不可欠であると考えます。

その実現に向けて、前年度にはスポーツ庁の助成事業に応募し日本型学校体育構築支援事業「学校における水難事故防止対策の強化」について研究を進めてきました。この事例を活かし、今年度は、株式会社イトマンスイミングスクールとパートナーシップ協定を締結し、学校の水泳授業が外部委託されるスイミングスクールでのWater Safetyプログラムの実現に向けて動き出しました。

この水辺の安全教育の普及は、学校教育への展開のほかにも、地域で教育できる体制づくりにも必要であり、その一環としてスイミングスクールでの展開を模索しております。

全ては水辺の安全教育「Water Safety」の普及のために重要な役割を担っており、これらを実現することが「水辺の事故ゼロ」を進める鍵となります。

また、東京都江戸川区にある東京オリンピック会場カヌー・スラロームセンターにて、「Enjoy Water Day」の開催に協力しました。急流を想定したこの会場で、Water Safetyプログラムを実施することは、プールでのライフジャケット着用体験以上の効果が期待でき、ここで得た体験は、その子どもの水辺の事故防止に極めて有効であることが考えられます。

さらには、国民的アニメであり子供から大人にまで人気のある「ドラえもん」と親子で学ぶ水辺の安全に関するリーフレットを制作することができました。このように教育における事業展開に力を入れ、大きく躍進した1年でもありました。

救命の活動においては、SUBARU「一つのいのちプロジェクト」の一環として、ライフセーバーカーを日本協会と30ある都道府県ライフセービング協会に計36台をご提供いただき、SUBARUとともに全国の海岸の安全構築に努めることができました。また、AIカメラによる離岸流検知システム「海辺のみまもりシステム」の設置や、ドローンパトロールの体制構築にも継続しており、着実に進前を進させています。そして今後もライフセーバーの質の向上に力を入れてまいります。

スポーツの活動においては、8月にオーストラリア・ゴールドコーストで開催されたライフセービング世界選手権大会で過去最高の6位を獲得し、ビーチフラッグスで金メダルをとるなど、着実にライフセービングスポーツにおける強豪国との差を縮め、世界で戦える選手の育成に成果を得られました。今大会ではなんといってもSERC競技での金メダル獲得に大きな意味がありました。長年の夢であり、なかなか実現できなかったこの種目の優勝は、単に競技力だけでなく日本の救助力の高さを証明することができました。メダル獲得には監督・コーチ・選手だけでなく審判として協力いただいた皆さんの大きな成果となりました。

さらに、第50回記念大会となった全日本ライフセービング選手権大会では、藤沢市の多大なる協力を得て、いのちと環境について学ぶ「ふじさわ LIFE FEST」を開催することができました。ご協賛いただいたSUBARU、BS日テレ、ポピンズ、櫻井興業、クレーマージャパンをはじめ、藤沢市消防局など関係各所の皆様に改めて御礼申し上げます。

最後になりますが、この1年間、全国で水辺の安全に寄与していただいた全国のライフセーバーに感謝申し上げます。ありがとうございました。

公益財団法人 日本ライフセービング協会
理事長 入谷 拓哉



Takuya IRITANI

【パートナー】

株式会社三洋物産
株式会社三洋販売
株式会社 SUBARU
ソニー生命保険株式会社
味の素株式会社
アルコインターナショナル株式会社
ENGINE JAPAN
花王株式会社
株式会社クレーマージャパン
株式会社櫻井興業
株式会社ハーレージャパン
リップカールジャパン株式会社

【助成】

シャルレーヌ・モナコ公妃財団
公益財団法人日本財団
独立行政法人日本スポーツ振興センター
公益財団法人スポーツ安全協会

【協力】

株式会社明石スクールユニフォームカンパニー
株式会社ゴールドウィン
株式会社TKS
株式会社ポピンズ

【事業協賛・協力】

株式会社 BS 日本 (BS 日テレ)
株式会社ポピンズ
古橋理税理士事務所
株式会社 L-SHIP
有限会社ファクトリーゼロ
Midcoast Marine Japan
IRB 普及促進会
株式会社オフサイド
公益財団法人かながわ海岸美化財団
三菱地所株式会社 横浜支店
下田市
藤沢市
御宿町
御宿町観光協会
白浜町
南紀白浜観光協会
白浜温泉旅館協同組合
白浜町商工会
富士市
一般社団法人富士山観光交流ビューロー

【団体寄付】

三賞株式会社
シーズン合同会社
株式会社白浜館
ソフトバンクつながる募金
株式会社大修館書店
株式会社タック
株式会社第一成和事務所
一般財団法人千代田健康開発事業団
株式会社トシダ
株式会社日旅物流
株式会社ピーウォッシュ
有限会社ファクトリーゼロ
ヤフービジネス

【個人寄付】

青木 伸一
青木 将展
阿部 海帆
石井 英一
板垣船大工店
岡田 千枝
小倉 利一
柏詩 央
鎌田 淳
菊地 太
清野 舞
工藤 孝志
朽方 規喜
久米 哲雄
佐藤 美智代
篠原 秀和
須垣 信介
鈴木 一也
鈴木 莉子
堤 正文
平野 玲奈
廣井 浩二
廣井 祐美江
古橋 理
平藤 昌寛
前 幸治
松井 宏泰
松本 葉子
宮澤 浩夫
村松 秀紀
文珠寺 裕之
山田 克也
吉富 眞里

〈敬称略〉

〈2024 年度〉

お名前記載の表明をされなかった方々を含め、52名の個人の皆様から寄付いただきました。
パートナー、助成、事業協賛いただきました皆様、寄付をお寄せいただいた全ての皆様へ御礼申し上げます。



株式会社三洋物産
株式会社三洋販売



株式会社SUBARU



ソニー生命保険株式会社



味の素株式会社



アルコインターナショナル株式会社



ENGINE JAPAN



花王株式会社



株式会社クレマージャパン



株式会社櫻井興業



株式会社ハーレージャパン



リップカールジャパン株式会社

助 成



モナコ公国シャルレーヌ公妃財団



公益財団法人日本財団



独立行政法人日本スポーツ振興センター
スポーツ振興くじ



スポーツ振興基金
独立行政法人日本スポーツ振興センター



公益財団法人スポーツ安全協会

協 力



株式会社明石スクール
ユニフォームカンパニー



株式会社ゴールドウイン



株式会社TKS



株式会社ポピンズ

日本ライフセービング協会は多くのパートナー・助成をいただき活動しております。<2024年度>